

平成27年9月2日招集

## 茂原市議会定例会会議録（第2号）

### 議事日程（第2号）

平成27年9月9日（水）午前10時00分開議

#### 第1 一般質問

- (1) 前田正志 議員
- (2) 田畑 毅 議員
- (3) 細谷 菜穂子 議員
- (4) 小久保 ともこ 議員
- (5) 佐藤 栄作 議員

## 茂原市議会定例会会議録（第2号）

平成27年9月9日（水）午前10時00分 開議

○議長（森川雅之君） おはようございます。ただいまから本日の会議を開きます。  
現在の出席議員は22名であります。したがって、定足数に達し会議は成立しました。

————— ☆ ————— ☆ —————

### 議 事 日 程

○議長（森川雅之君） 本日の議事日程はお手元に配付しておりますので、それにより御了承願います。

————— ☆ ————— ☆ —————

### 一 般 質 問

○議長（森川雅之君） それでは、これより議事日程に基づき議事に入ります。

議事日程第1「一般質問」を行います。

今定例会の一般質問通告者は11名であります。

本日は、質問順位1番から5番までとします。

発言に入る前に申し上げます。質問者は質問内容を簡明に述べるとともに、答弁者はその内容を的確に把握し明確な答弁をされますようお願い申し上げます。

なお、質問時間は答弁を含め60分以内となっておりますので、御了承願います。

それでは、順次質問を許します。

最初に、前田正志議員の一般質問を許します。前田正志議員。

（8番 前田正志君登壇）

○8番（前田正志君） 皆さん、おはようございます。もばら21の前田正志です。通告に従い、一般質問を行います。

本日は、3つのテーマを伺いたいと思います。

まず1つ目に、まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議について、2つ目に、子育て支援について、3つ目に、安心・安全のまちづくりについての大きく3のテーマでございます。どうぞよろしくお願いをいたします。

まず初めに、まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議について伺います。

このたび、国のまち・ひと・しごと創生施策にあわせ、茂原市においても、まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議が設置されました。国が決めました、まち・ひと・しごと創生法を

見ますと、その第1条目的には、少子高齢化の進展に的確に対応し、人口の減少に歯どめをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくために、まち・ひと・しごと創生に関する施策を総合的かつ計画的に実施するとあります。

ここで「まち」といいますと、国民一人一人が夢や希望を持ち、潤いのある豊かな生活を安心して営める地域社会の形成とあります。また、「ひと」とは、地域社会を担う個性豊かで多様な人材の確保。「しごと」とは、地域における魅力ある多様な就業の機会の創出とあります。このまち・ひと・しごとを一体的に推進することが求められております。

それでは、具体的に質問させていただきます。

まず、このまち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議の会議の設置の経緯と目的をお聞かせください。

次に、具体的に、どのような皆さんがこの会議のメンバーに選ばれていて議論が進められているのか、委員の構成と、その意図をお聞かせください。

そして最後に、これまでの会議の開催状況、それから今後の予定をお聞かせをお願いいたします。

次に、2番目の大きなテーマ、子育て支援について伺います。

少子高齢化社会を迎えまして、子育て支援の充実が喫緊の課題となっております。子育て世代の争奪戦とも言うべき都市間競争も進んでおります。とりわけ子供を産み育てる中心的な役割を担うのは母親ということもあります。乳幼児を抱える若いお母さん方に可能な限り満足いただけるような子育て支援を行っていくことが、この競争に勝ち抜き、茂原市に活力を与える起爆剤になると考えております。

まず、乳幼児と母親、特に市内に知り合いのいない転入者、俗な言葉で申しますと、市内にお嫁に来た、そういった方が自宅以外で過ごせる居場所の確保についてのお考えをお聞かせください。

また、そのような居場所の確保について、現在の茂原市の取り組み、とりわけ拠点となるべきなのは総合市民センターや保健センター、福祉センターなどと考えますけれども、これらの活用状況をお聞かせください。

次に、夜間・祝祭日・長期休業期間中、夏休みとか冬休み、春休み、このあたりの子供の居場所、乳幼児、小学生について、夜間や学校が休みの間の家庭以外の居場所の確保についてのお考えをお聞かせください。

また、そこでも現在の取り組み、また、ここでも市民センターや保健センター、福祉センターなどの活用状況はいかがでしょうか。お聞かせをください。

次に、効果的な情報提供について伺います。茂原市もいろいろな取り組みをしているんですけども、現在は、こちらのさまざまな子育て情報をどのような手段で、どのような形式で情報提供を行っているのかをお聞かせ願います。

3番目、安心・安全のまちづくりについて伺います。

まず1つ目に、有害鳥獣駆除事業に係る獣害対策用電気柵について伺います。御承知のとおり、最近の農業を取り巻く情勢は、農業資材や飼料価格の高騰、担い手の減少や高齢化、また農畜産物価格の低迷、TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）への参加問題など、さまざまな課題を抱えております。加えて、この茂原市の地域におきましても、イノシシやアライグマ、ハクビシンといった有害鳥獣による農作物の被害も年々増加の傾向にあります。その対策に関係者の方々が苦慮されていると伺っております。そのような当事者の皆様、対応に当たられている市役所職員の皆様に心より敬意を表したいと思っております。

さて、その有害鳥獣駆除の対策の1つとして、獣害対策用の電気柵があると伺っております。先日は、静岡県西伊豆町で電気柵に関わる痛ましい事故がありました。被害に遭われた皆様に深く哀悼の意を表します。

それでは、茂原市における獣害対策用電気柵につきまして、具体的に質問をさせていただきたいと思っております。

まず、この獣害対策用電気柵の設置状況につきまして、国や県からの指導もありまして調査をされたと伺っておりますが、その調査の概要と結果についてお聞かせを願います。

それから、もしこういった調査で危険な箇所が見つかったケースがあれば、その危険防止の取り組みについてもお聞かせを願います。

次に、細くて狭い狭隘な生活道路の交通安全、防災、またその改修について伺います。茂原市内各地におきまして、道路の狭い住宅地が見受けられます。見通しが悪く、また歩道もないことから、特に抜け道となっているような狭い道路での交通事故が心配されます。また、道幅が狭いため、消防車がなかなか入ってこられないような地域もあります。こういった地域での火災などへの影響が心配されます。

そこで、まず、こういった狭隘な生活道路における交通安全の確保についての対策をお聞かせください。

また、道が狭く、火災時など非常時に消防車が進入できないような地域の防火・防災につい

ての対策をお聞かせ願います。

次に、このような狭くて細い狭隘道路の改修についての市のお考えをお聞かせください。

3つ目に、排水対策について伺います。茂原市の「もばら」とは、水はけの悪い湿地帯が広がることから「藻」の「原」が語源となっているようです。その昔は水田や沼地だったような地域も開発がされ、現在でも水はけの悪い地域が各地に点在しております。平成25年の台風26号は市内に甚大な浸水被害をもたらしました。そのため、一宮川流域を中心にこういった浸水対策が現在とられております。しかしながら、従来より水の被害に悩まされた地域は、この一宮川流域に限りません。それでは、平成25年の台風26号による浸水被害を受けた地域以外に、現在対策がとられている、その地域は除きまして、台風26号被害以外の地域における排水対策、これはいわゆる内水対策というのも含みまして、それについての市の認識と現状、特に各地の自治会から多数要望が寄せられていると思っておりますけれども、こういった要望の箇所数、また、それに対する取り組みについてお聞かせを願います。

以上で私の1回目の質問を終わります。御答弁をよろしく願いいたします。

御清聴ありがとうございました。

○議長（森川雅之君） ただいまの前田正志議員の一般質問に対し当局の答弁を求めます。

市長 田中豊彦君。

（市長 田中豊彦君登壇）

○市長（田中豊彦君） 前田正志議員の一般質問にお答えさせていただきます。

まず、まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議の中で、会議設置の経緯と目的についての御質問でございますが、総合戦略につきましては、自立した活力あるまちの実現に向け、基本的な目標を定め、進むべき方向を明確にした上で具体的施策を推進していく必要があることから、産官学金労言等で構成する推進組織を設置し、専門的な立場での意見を伺うことが重要とされております。こうしたことから、本市の人口ビジョン及び総合戦略の策定に際しましても、それぞれの分野で専門的見地から意見を聴取するとともに、幅広い意見を反映させていくため、平成27年5月に外部の有識者で構成する14名に推進会議の委員をお願いしたところでございます。

次に、安心・安全のまちづくりの中で、電気柵の設置状況調査の概要と結果についての御質問でございますが、静岡県西伊豆町で起きた鳥獣被害防止の電気柵による死傷事故を受けまして、本市においても同様の事故が起きないように、個人が設置した市内10カ所の電気柵について、電気事業法に基づく設置方法を満たしているかの点検を実施いたしましたところであります。10カ

所の電気柵のうち2カ所が危険である旨の表示がない不適合があったため、設置者に対し表示を行うよう指導し、改善されたところであります。

私からは以上でございます。

○議長（森川雅之君） 企画財政部長 岡澤与志隆君。

（企画財政部長 岡澤与志隆君登壇）

○企画財政部長（岡澤与志隆君） 企画財政部所管に関わります御質問にお答え申し上げます。

初めに、まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議の委員の構成と意図についての御質問ですが、推進会議委員14名の構成につきましては、商工業、農業、地場産業から専門的知見を伺うため、茂原商工会議所3名、長生農業協同組合1名、大多喜ガス1名の5名を選定しております。行政分野からは、労働行政等の知見を伺うため、茂原公共職業安定所から1名を、教育分野からは、まちづくりや子育て支援、教育の現場の声を伺うため県内大学者2名と、市内高校関係者2名の計4名を選定しております。また、金融分野からは、地域経済の分析や活性化に向け市内金融機関より2名を、労働分野からは、労働条件の現状把握や企業での人材育成に向け、株式会社フジワークから1名を選定し、茂原市自治会長連合会から住民代表1名を加えた構成となっております。

次に、これまでの開催状況と今後の予定についての御質問ですが、推進会議は、これまで6月、7月、8月の各月1回ずつ、計3回開催しており、今後は人口ビジョン及び総合戦略の素案に対する意見をお伺いするため、10月に開催を予定しております。

なお、総合戦略につきましては、実施した施策の客観的な効果検証が必要であることから、次年度以降も検証機関として推進会議の存続を予定しております。以上です。

○議長（森川雅之君） 福祉部長 鈴木健一君。

（福祉部長 鈴木健一君登壇）

○福祉部長（鈴木健一君） 福祉部所管の御質問に答弁させていただきます。

初めに、乳幼児と母親、特に転入者が自宅以外で過ごせる居場所の確保の考えはという御質問にお答えさせていただきます。核家族化の進行や就労の多様化などで子育て環境が大きく変わる中、身近なところに育児の相談相手がいない子育て家庭にとって、親子の交流や情報の交換などができる安全・安心な居場所は育児不安や孤立化の解消につながり、大変重要であると考えております。

次に、乳幼児と母親の居場所について、現在の取り組み状況はという質問にお答えいたします。現在、平日の親子の居場所としては、総合市民センターをはじめ各福祉センターの遊戯室

を親子で自由に遊べる場所として提供しております。また、総合市民センター、地域福祉センター、図書館などの公共施設において、ゼロ歳から就学前の子供と保護者を対象とした親子遊び、体育遊び、自由遊び、体験教室などの事業を実施しております。保健センターでは、随時、窓口で相談を行っており、子供を安心して産み育てることができる子育て支援を行っております。

次に、乳幼児から小学生、特にひとり親家庭の夜間や学校等が休みの間の家庭以外の居場所の確保の考え方はという質問にお答えいたします。乳幼児や小学生を抱えるひとり親家庭において、就労形態によっては、夜間や学校等が休みの間の居場所の確保は課題であると認識しております。

次に、夜間・祝祭日・長期休業期間中の子供の居場所の取り組み状況はという御質問にお答えいたします。現在、祝祭日については、図書館において読み聞かせなどを行っております。また、長期休業期間中における子供の居場所につきましては、総合市民センター外4カ所の福祉センターにおきまして、ゼロ歳から就学前の子供と保護者及び小学生を対象とした親子遊び、体育遊び、自由遊び、体験教室などを行っております。そのほかに学童クラブ事業におきましても、通年学童保育事業の一環として、全ての学童クラブ18カ所において受け入れを行っております。特に夏休み期間中は利用希望が多いことから、総合市民センター内に夏季学童クラブを臨時に開設し、要望に応じているところです。

次に、子育て支援情報の現在の情報提供手段はという御質問にお答えいたします。情報提供についてですが、生後2か月から3か月ごろをめぐりに、こんにちは赤ちゃん訪問事業において、相談員がもばらで子育てハンドブック、子どもの急病ガイドブック、赤ちゃんの気持ちがわかる本などを子育て世帯全ての皆様に配布しているところでございます。また、もばらで子育てハンドブックにつきましては、ホームページへの掲載や公共施設9カ所において配布しているところでございます。

○議長（森川雅之君） 経済環境部長 西ヶ谷正士君。

（経済環境部長 西ヶ谷正士君登壇）

○経済環境部長（西ヶ谷正士君） 経済環境部への質問の中で、獣害対策用電気柵への危険防止の取り組みについての御質問でございます。本件につきましては、市のホームページにおいて、鳥獣害対策用の電気柵使用に関し適切な設置を行うよう注意喚起を行ったほか、農家組合長を通じ全農家へパンフレットを回覧するなど、安全使用の周知徹底を図っております。以上でございます。

○議長（森川雅之君） 都市建設部長 佐久間静夫君。

（都市建設部長 佐久間静夫君登壇）

○都市建設部長（佐久間静夫君） 都市建設部所管に関わります安心・安全のまちづくりについての御質問に御答弁申し上げます。

初めに、狭隘な生活道路における交通安全の確保についての認識と対策についての御質問でございますが、自治会等から交通安全対策の要望があった場合、現地を確認し、自治会長と相談の上、カーブミラーの設置や啓発看板の設置などにより対応しているところでございます。

次に、狭隘道路改修の考えについての御質問でございますが、市民の安全な通行に資するため、道路拡幅や待避所及び隅切りの設置などに取り組んでいるところでございます。しかしながら、道路の改修につきましては、用地を確保するために地権者の事業協力が必要であり、1路線を完成させるために期間を要すること、また、自治会等からの要望が多いことから、全ての路線を早期に対応することは難しい状況でございますが、市民が安全に生活する上で道路整備は重要なものと考えておりますので、今後も事業の推進に努めてまいります。

次に、平成25年の浸水被害地域以外における排水対策や内水対策についての認識と要望箇所数の状況、現在の取り組みについての御質問でございますが、近年、台風による大雨だけでなく、局地的な豪雨等が多発しており、市内でも一時的に冠水が発生している状況がございますので、排水不良箇所につきましては、日ごろから注視し、把握に努めているところでございます。排水整備の要望箇所につきましては、約180カ所あり、そのうち60カ所が整備済みとなっております。

現在の取り組みでございますが、排水整備につきましては、排水能力の向上により浸水被害の軽減が図られることから、U字溝などの構造物による整備に努めているところでございます。

また、内水対策につきましては、浸水被害の状況や要因の把握に努め、必要な対策を検討しているところでございます。以上でございます。

○議長（森川雅之君） 総務部長 豊田正斗君。

（総務部長 豊田正斗君登壇）

○総務部長（豊田正斗君） 総務部所管に関わります地域の防火・防災についての御質問に御答弁いたします。長生郡市広域市町村圏組合消防本部に確認をいたしましたところ、中央消防署には水槽付ポンプ車が配備されており、2.5メートル程度の幅員があれば車両が進入でき、消火活動を行えるとのことでございます。消防車が進入できない狭隘な道路につきましては、ホースを延長いたしまして消火活動を行うこととなります。以上でございます。

○議長（森川雅之君） 再質問ありますか。前田正志議員。

○8番（前田正志君） 御答弁ありがとうございます。それでは、再質問をさせていただきます。

まず最初に、まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議についてでございますが、答弁の中に人口ビジョンというのと総合戦略というのが出てきたんですけれども、この概要についてお聞かせをお願いいたします。

○議長（森川雅之君） 企画財政部長 岡澤与志隆君。

○企画財政部長（岡澤与志隆君） 人口ビジョンは、本市の人口の現状と将来展望を示し、人口減少に起因するさまざまな問題を幅広く共有するとともに、本市におけるまち・ひと・しごと創生の実現に向け、効果的な施策を企画立案する上で重要な基礎となるものでございます。

また、総合戦略は人口ビジョンを踏まえ、人口減少を克服し、将来にわたり活力あるまちの実現を目指し、今後5か年の目標や施策の基本的方向、具体的な施策をまとめるものでございます。以上です。

○議長（森川雅之君） 前田正志議員。

○8番（前田正志君） ありがとうございます。この人口ビジョンと総合戦略、今後の流れについてまた伺うときに、もう少し詳しくお伺いたいと思います。

続きまして、委員の構成ということで、14名の構成で、商業、農業、地場産業からということで5名、公共職業安定所から1名、教育分野から4名、金融機関から2名、労働界から1名、住民代表1名ということでありましたが、国のマニュアルといたしますか、こういった会議のメンバーは、モデルケースとして選び方というのが、ホームページを見たら載っておりまして、労働代表というのは、大体、労働組合があれば、そこの方をお願いしたらどうかというようなことが書かれておりましたが、この労働代表は、茂原市にも労働組合さんがあるんですけれども、労働組合でなく人材派遣会社フジワークさんになった理由を、お聞かせをお願いします。

○議長（森川雅之君） 企画財政部長 岡澤与志隆君。

○企画財政部長（岡澤与志隆君） 推進会議の場において、企業側が求める人材や雇用に関する意向などの把握に努め、効果的な就業支援施策を検討することを目的としておりまして、本市企業への人材派遣や人材育成支援、オーストラリアからのインターン受け入れなどの実績があることから選定いたしました。以上です。

○議長（森川雅之君） 前田正志議員。

○8番（前田正志君） ありがとうございます。今回の推進会議の場といたしますと、効果的な就業支援施策ということで、働き口をつくるところがメインというようなことで、そういった

ことになったのかなというようなことで理解をいたしました。ただ、働く人の代表である労働組合さんのほうからの意見も、こういった総合戦略の中には入るべき部分だと思っておりますので、そういった声を拾い上げる工夫を今後していただければと思います。これは要望で結構でございます。

続きまして、先ほど答弁にもありましたとおり、産官学金労言、言というのは言論、いわゆるマスコミ、そういった方が入ってくるようなことで設置をしてくださいというようなことで国からうたわれていたようですけれども、今回、言論の代表、茂原市も各新聞社千葉支局の中の出先みたいな方がいて、記者さんのブースもあるようなんですけれども、今回、言論代表、マスコミ関係者がこちらの会議に入っていない理由をお聞かせ願います。

○議長（森川雅之君） 企画財政部長 岡澤与志隆君。

○企画財政部長（岡澤与志隆君） 言論分野につきましては、本市の総合戦略がある程度具現化された時点で、その全体像を説明した上で、個別に意見をお伺いすることを予定しているため、推進会議には参加いただいております。以上です。

○議長（森川雅之君） さらにありますか。前田正志議員。

○8番（前田正志君） ありがとうございます。ある程度の段階でお示しをして御意見を伺うということですので、会議自体ももう間もなく終わるような形で聞いておりますので、きちんと意見を伺って、またそれを公開するなりして、わかりやすいようにお手続きをお願いしたいと思います。

次に、教育の代表者、先ほどのお話ですと大学関係から2名、市内の高校関係2名の4名ということですが、こちらは小学校、中学校、そういった方からも子育てといいますが、人育てという部分では御意見を伺うのもいいのかなと思ったんですけれども、小中学校の代表が教育の部分に入っていない、その理由はいかがでしょうか。

○議長（森川雅之君） 企画財政部長 岡澤与志隆君。

○企画財政部長（岡澤与志隆君） 小中学校に関する総合戦略の取り組みの提案には、現場を熟知した方からの意見聴取は重要となります。このため、小中学校の関係者は今回あえて推進会議に取り込まず、総合戦略の実践事業を検討する庁内職員で構成する総合戦略の作業部会に参加していただきまして、そこからさまざまな意見や提案を、あるいは助言をいただいております。以上です。

○議長（森川雅之君） 前田正志議員。

○8番（前田正志君） そうしますと、この作業部会の中には小中学校の関係者が入っている

ということで、そこで御意見をいただいているということで了解をいたしました。

私もこの会議、2回ほど傍聴させていただきまして、人選につきましては、商工業関係の方がかなり手厚くいらっしゃって、いろいろな活発な意見が非常に繰り広げられているなどといった印象がありますので、そのあたり、さらによくなるように進めていただければと思っております。

続きまして次の質問になりますけれども、国の動向につきまして、1年目はいろいろと予算も手厚くついて、茂原市も平成26年度の補正予算を繰り越しましてさまざまな事業を展開しておりますけれども、今後の国の動向、報道等によりますと、予算額が減らされたりというようなことで若干トーンダウンと申しますか、方針の変更があるようですか、そのあたりは一体どのようなことになっているのかお聞かせをください。

○議長（森川雅之君） 企画財政部長 岡澤与志隆君。

○企画財政部長（岡澤与志隆君） 新たに創設されます地方創生の深化のための新型交付金につきましては、平成26年度の補正予算1700億円を大幅に下回る1080億円が概算要求されていることから、事業規模が縮小する懸念に加えまして、事業実施に際しても国と同額の負担が必要となり、総合戦略の施策展開が非常に厳しくなるものと想定しております。しかしながら、目標達成の足がかりとなる極めて重要な時期と認識しておりますので、本市の将来を見据え、総合戦略の推進に努めてまいりたいと考えております。以上です。

○議長（森川雅之君） 前田正志議員。

○8番（前田正志君） 来年度の予算の概算要求が1080億円ということで、1700億円から大分減っている、プラスして同額の負担ということで、国が半分、市なり県なりが半分というようなことになるんでしょうけれども、市の負担が増えるとなると思い切った施策もなかなか取りにくいというような印象でございます。いろいろと国政のことを言うときりがないので、この辺にしておきますけれども、地方創生というのがかけ声倒れになってしまっているのかなという危惧を持っておりますが、この総合戦略は、今後の茂原市の発展に非常に大きな影響を与えるということですので、そういったいろいろな状況を見ながら効果的な施策の推進をお願いしたいと思います。

そのような中、先ほど再質問の一番最初で伺いましたけれども、人口ビジョン・総合戦略をいろいろな状況の中、どのように展開をして目標を達成していくおつもりなのかを伺いたしたいと思います。お願いします。

○議長（森川雅之君） 企画財政部長 岡澤与志隆君。

○企画財政部長（岡澤与志隆君） 本市の人口ビジョンは、2040年時点での人口の将来展望を8万5000人としまして、施策の効果として約1万5000人の人口減少を抑制するものとした。総合戦略は、人口ビジョンで示した将来展望の実現に向けまして4つの基本目標を定め、それぞれの目標ごとに講ずべき施策の基本的方向や実施する具体的な施策を提示するものでございます。現在策定中の総合戦略は、平成31年度までを対象期間といたしてございまして、目標達成の足がかりとなる極めて重要な時期と認識し、実施した施策の効果を検証し、改善を図りながら進捗させてまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（森川雅之君） 前田正志議員。

○8番（前田正志君） この質問をつくっている段階では、あまり情報がなかったんですけども、先週の2日の開会日に全員協議会の中で資料が配られまして、この人口ビジョンによりますと、現在の9万2000人弱の茂原市の人口が何もしないと2040年には7万471人に減少するであろうというようなことで分析をされまして、それで総合戦略を立てることによりまして、2040年には8万4878人、先ほどお話がありましたように、1万5000人の人口減少を抑制するというような取り組みだということでございます。こちらは4つのビジョン、今お示しがありませんでしたけれども、産業が力強く成長するまち、結婚・妊娠・出産・子育てを応援するまち、市民の活力とにぎわいのあふれるまち、地域力が暮らしを支えるまちというような大きな目標を定めておりますので、10月に最後の会議がある中で、いろいろと計画を肉づけしていただきまして、茂原市が2040年、8万5000人の人口維持をきちんと達成できるように、我々議員もしっかりと協力をしつつ、また検証しつつ取り組んでいきたいと思っております。

1つ目のまち・ひと・しごと創生総合戦略につきましては、これにて終わりにいたしまして、次の子育て支援のほうに移りたいと思っております。

子育て支援につきましては、先ほど御答弁がありましたけれども、まず、居場所の確保について今後の取り組みの予定をお願いいたします。

○議長（森川雅之君） 福祉部長 鈴木健一君。

○福祉部長（鈴木健一君） 総合市民センターや各福祉センター内の児童センターでは、児童厚生員が配置され、育児中の親同士の情報交換や気軽に相談できる体制ができております。今後も、相談しやすく安全安心な居場所として、各施設の連携を図りながら育児不安の解消に努めてまいりたいと考えております。

○議長（森川雅之君） さらにありますか。前田正志議員。

○8番（前田正志君） ありがとうございます。今、児童厚生員が配置されているということでありましたけれども、児童厚生員とは、こういった資格の方で、何人くらい、こういったところに配置をされているのかをお聞かせください。

○議長（森川雅之君） 福祉部長 鈴木健一君。

○福祉部長（鈴木健一君） 児童厚生員は、地域の子供たちを対象に、子供や子育ての実態を把握し、子供の遊びを援助するとともに、遊びや生活に密着した活動を通じて、子供たちが健やかに育つ環境づくりを推進しています。本市では、総合市民センターや各児童センターにあわせて6名が配置されております。

児童厚生員の資格ですけれども、児童厚生員は、保育士や学校の教員の資格を持っている方が児童厚生員として講習を受けて対応しているところでございます。

○議長（森川雅之君） 前田正志議員。

○8番（前田正志君） そうしますと、そういった保育士や学校の教員の資格を持っている方が専門的な講習を受けて、こういった児童厚生員の資格を取る、その方々が6名配置をされていて、茂原市の場合、いろいろな子育て支援を行っているというようなことで承知をいたしました。私も児童厚生員というのは、不勉強で知らなかったもので、またこういった方々の拡充をしていければいいなと考えております。

さて、子供の居場所ということで、常駐の専門職員さんがその場にいらっしゃって、気軽にお母さん方が、この界限にあまり土地勘もなく、急に越してきて不安になっているような、そういった皆さんが気軽に無料で相談できる、そういった場所があるといいなと思っております。いろいろと要望も多いものですから、そういったところをつくっていくのが我々の仕事だなというふうに思っております。質問させていただいておりますが、この議会で補正予算に産前産後のサポートセンターというのがつくられるというようなことで載っておりますけれども、この産前産後サポートセンターの概要についてお聞かせをいただけますでしょうか。

○議長（森川雅之君） 市民部長 相澤 佐君。

○市民部長（相澤 佐君） 保健センター内に産前産後サポートセンターを開設しまして、産前産後の保護者の方がいつでも気軽に立ち寄り、保健師や助産師に相談したり、必要なケアが受けられる相談コーナーを設置するほか、子供のキッズスペースや授乳指導が受けられるように整備する予定でございます。

○議長（森川雅之君） さらにありますか。前田正志議員。

○8番（前田正志君） ありがとうございます。こちらは、私がいろいろと要望を受けている

ような中でも、助産師さんとか保育士さんから相談を受けられて、子供たちと一緒にいけるところがあるといいなというような要望がたくさんありますので、すごくイメージに近いなという部分があるんですけれども、この議会で補正予算が予定どおりきちんと通った場合、いつごろくらいから開設できるのか、もし見込みがわかればお願いをしたいんですけれども、答えられる範囲で結構ですので、お願いします。

○議長（森川雅之君） 市民部長 相澤 佐君。

○市民部長（相澤 佐君） 保健センターのほうに備品等を整備しまして、12月上旬にオープンする予定であります。

○議長（森川雅之君） 前田正志議員。

○8番（前田正志君） 来年の4月ではなくて12月上旬ということで、結構早くできるんだなということで、ありがとうございます。後で出てきますけれども、こういったものもしっかりと対象になるお母さん方に伝わるようにしていただければと思います。

続きまして、子育てのサークルとか、ママ友づくりの会とか、若いお母さん同士でいろいろと取り組みがされているような部分がありますけれども、こういった民間といいますか、市主導でないところへの支援、民間ベースでの子育て支援、そういったものに対する茂原市のサポートはどんな形になっていますか、お聞かせください。

○議長（森川雅之君） 福祉部長 鈴木健一君。

○福祉部長（鈴木健一君） 市では、子育てサークルやママ友づくりへつなぐための場所の提供や教室を開催しているところでございます。また、民間ベースの子育て支援といたしましては、市内2カ所の私立保育園内に開設された子育て支援センターがあります。事業内容といたしましては、地域の子育て支援の拠点として親子の交流の促進、子育て不安の緩和に取り組んでいるところでございます。

○議長（森川雅之君） さらにありますか。前田正志議員。

○8番（前田正志君） ありがとうございます。子育てのサークル、要望なんですけれども、こういった施設を気軽に使っていけるように、部屋の減免とか無料化とか、そういった措置をとっていただけるようお願いしたいと思います。

また、いろいろな子育てサークルとか、ほかのボランティアの団体さんでも、実際、ボランティアで手伝ってくれる人が最近減っているというところもありますので、ボランティアの募集に苦労しているということがありますので、そういった募集についてもいろいろと御配慮を、市の協力をお願いできればと思っております。今のは要望でございます。

さて、次に、夜間・祝祭日の子供たちの居場所ということで、特に学童等は取り組みをされているようですが、こちらは定員というのは足りているのでしょうか。お願いします。

○議長（森川雅之君） 福祉部長 鈴木健一君。

○福祉部長（鈴木健一君） 現在、市内学童クラブにおいて待機児童はおりません。そして、児童の受け入れに余裕のある学童クラブにおいては、随時受け入れすることができ、子供たちの受け入れをしているところでございます。

○議長（森川雅之君） 前田正志議員。

○8番（前田正志君） それでは、現在、学童クラブについては待機児童はおりませんということでございます。それは安心をしているんですけども、特に市民のニーズを把握するのが非常に重要になってくるのかなと思いますけれども、こういった市民ニーズを把握する手段については、どのようになっておりますでしょうか。

○議長（森川雅之君） 福祉部長 鈴木健一君。

○福祉部長（鈴木健一君） 昨年度、茂原市子ども・子育て支援事業計画を策定するにあたり、市内在住の小学校3年以下の子供を持つ保護者の方2000名を対象に、子育て支援に関するニーズ調査を実施いたしました。ちなみに、回答率は1699人で、84.9%という結果でした。今後は、その結果をもとに事業計画を推進してまいりたいと考えております。

○議長（森川雅之君） 前田正志議員。

○8番（前田正志君） ありがとうございます。2000人調査して回答率84.91%、かなり高い回答率の中でニーズ把握をされているということで、承知をしました。これが、ただ、昨年度ということで、何年かたつとデータが古くなってきたりもしますので、このあたり、新たなニーズを吸い上げる体制、相談窓口とか電話回線を引くとか、また、いろいろな各団体さんとか学童クラブさんとか、そういった人たちとの要望とか情報交換を密にして検討をしていただければと思います。

続きまして、夜間・祝祭日、長期休業中の子供の居場所につきまして、今後の取り組みで何かお考えがあればお聞かせをください。

○議長（森川雅之君） 福祉部長 鈴木健一君。

○福祉部長（鈴木健一君） 今後の取り組みということですが、保護者が疾病などの理由で児童の養育が困難になった場合には、7日間を限度に養育・保護するショートステイ事業、仕事等の理由により平日の夜間や休日に不在となり児童の養育が困難な場合に児童を預かるトワイライトステイ事業について、児童の養育が適切に行える児童養護施設に事業内容を説明し、協

議してまいりたいと考えております。

○議長（森川雅之君） 前田正志議員。

○8番（前田正志君） 今の新しい事業、ショートステイ事業、こちらとトワイライトステイ事業ということで、夜間の預けが今あまりニーズがないのか知りませんが、受け皿がないというようなこともありますので、こちらの2つの事業を推進されるのはすごくありがたいと考えておりますので、概要が固まりましたら、またお知らせをいただければと思います。

続きまして、事業所内の託児について伺いたいと思います。市内の企業さんとか医療機関とか、病院とかで夜勤とか昼間働いている方々用に、いろいろと事業所内で託児を行っているところがあるようですけれども、そちらへの支援についてのお考え、また、そういった取り組みがあればお聞かせをください。

○議長（森川雅之君） 福祉部長 鈴木健一君。

○福祉部長（鈴木健一君） 事業所が専用の保育施設を用意することで、産後のお母さんも比較的早く職場に復帰でき、送迎の負担がないことや医療や介護関係の事業所では夜間等も対応できるなど、育児と仕事の両立が図られると考えています。本市には2カ所の事業所内託児があり、子ども・子育て支援新制度では、従業員のお子さんのほかに、地域の保育を必要とする子どもを受け入れるなど、国の定めた基準を満たした場合には支援の対象になることから、事業所に対し定期的に意向確認を行っているところでございます。

○議長（森川雅之君） 前田正志議員。

○8番（前田正志君） ありがとうございます。2カ所の事業所で託児を行っているということですが、その事業所のほかに地域の子どもたちの保育がもしできるのであれば支援の対象となるというような理解でおります。定期的に意向確認をされているということですので、また今後とも継続して意向確認をするとともに、将来的な支援を検討するようにしていただくようお願いいたします。

続きまして、効果的な情報提供のほうに移りたいと思いますが、今、母親世代はスマホとか、そういった形で携帯端末を使っているいろいろと情報を収集しておりますけれども、携帯端末から見やすいホームページやメルマガ、またフェイスブックとか、そういったSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の活用は現在のところいかがでしょう。

○議長（森川雅之君） 福祉部長 鈴木健一君。

○福祉部長（鈴木健一君） 無料のスマートフォンアプリを活用して子育て支援に関する情報提供については、昨年度、千葉県においてモデル事業として実施いたしました。メルマガ、S

NSなどについては、先進市の事例を参考に検討してまいりたいと考えております。

○議長（森川雅之君） 前田正志議員。

○8番（前田正志君） 今お話に出ました千葉県においてのモデル事業、スマートフォンアプリ「ちばMy Style Diary」の内容について、簡単に御紹介をお願いします。

○議長（森川雅之君） 福祉部長 鈴木健一君。

○福祉部長（鈴木健一君） 昨年度から千葉県で実施しております事業で、モデル事業として県内10市町を対象に、無料のスマートフォン用アプリを活用して、結婚から妊娠・出産・子育てまでの切れ目のない支援を行う、「Chiba Woman Diary」事業として実施いたしましたが、今年度からその結果を踏まえ、対象地域を県下全域としながら、男性にも利用できるようにし、「ちばMy Style Diary」として、本市においても8月20日より情報発信を行っております。

○議長（森川雅之君） 前田正志議員。

○8番（前田正志君） ありがとうございます。私もこのアプリの存在を知らなかったんですけども、不勉強ですみません。8月20日から始まったということでございますので、こういった情報をしっかりとまた発信をしていただければと思います。

先ほど出ましたけれども、もばらで子育てハンドブック、これは毎年冊子が出ていまして、コンパクトにまとまっていて非常に便利だというお声も伺っております。この間、市のホームページを見ましたら、ダウンロードできるような形でホームページにも載っておりましたので、「ちばMy Style Diary」のほうもいろいろな場所でPRをお願いしたいと思います。

せっかくのいろいろな取り組みをされているわけですから、こういった情報がきちんと対象になる皆さんに伝わるように、特に若い世代のライフスタイルに配慮いたしまして、若い職員さんもたくさんいらっしゃるので、そういった意見を大切にしながら情報提供をお願いしたいと思います。

それでは、2番目の子育て支援のほうはここまでとして、次に、安心・安全のまちづくりについて伺いたいと思います。

まず最初に、獣害対策用の電気柵ということで、市としての今後の対応について伺いたいと思います。お願いします。

○議長（森川雅之君） 経済環境部長 西ヶ谷正士君。

○経済環境部長（西ヶ谷正士君） 電気柵は、作物の生育等にあわせまして設置と撤去を繰り返しております。本市といたしましては、今後も定期的に点検の実施に努め、不適合な箇所があった場合については指導をしてまいります。

○議長（森川雅之君） 前田正志議員。

○8番（前田正志君） ありがとうございます。私もニュースを見たときに非常にびっくりいたしました。まして、電気柵、たまに農村部とか行くと見るんですけれども、あんなに危険なものなのかと思いましたが、それは危険なつなぎ方をしていたというようなことでございますので、そういう対応をしっかりとお願いしたいと思います。

次に、相談窓口について伺いたいと思うんですけれども、ああいった事件がありますと、近所にあるあの電気柵は大丈夫かなといった不安の声も聞かれると思いますので、そういった場合の、相談窓口についてはどのようなお考えがあるのか伺います。

○議長（森川雅之君） 経済環境部長 西ヶ谷正士君。

○経済環境部長（西ヶ谷正士君） 有害鳥獣による農作物の防止及び家畜の逃走防止のための電気柵に関する相談は、農政課で対応してまいります。

なお、先ほどお答えいたしました。全農家へ回覧したパンフレットにも、経済産業省関東東北産業保安監督部を電気柵設置方法に関する問い合わせ先として掲載をしております。

○議長（森川雅之君） 前田正志議員。

○8番（前田正志君） ありがとうございます。パンフレットの写しを一部いただいたんですけれども、電気柵で必ずやらなければいけないのが、危険である旨の表示、出力電流が制限される電気柵用の電源装置を使用すること、漏電遮断器を設置すること、専用のスイッチを設置することということでございまして、パンフレットがありますので、そういったものを全農家へ回覧したということでございますので、またそういった問い合わせについては対応いただければと思います。

続きまして、こういった農家への周知もさることながら、今申し上げたような電気柵の装置を売っている販売店、あるいはこういった電気関係の業者さんで工事をする場合もあろうかと思っておりますけれども、そういった販売店や施工業者さんへの周知の取り組みについてはいかがでしょうか。

○議長（森川雅之君） 経済環境部長 西ヶ谷正士君。

○経済環境部長（西ヶ谷正士君） 販売店や施工業者への周知に関しましては、電気事業法を所管しております経済産業省及び日本電気柵協議会、並びに農業関係団体を通じ、感電事故の再発防止を万全に期するため注意喚起を行っているところでございます。

○議長（森川雅之君） 前田正志議員。

○8番（前田正志君） ありがとうございます。リストを事前にいただきまして、いろいろな

協議会とか、チェーンストア協会とか、ショッピングセンター協会とか、そういったところにも周知依頼ということで出されておりますので、この界限もいろいろな業者さんとか、そういった施工業者さんへの周知の取り組みをお願いしたいと思います。

続きまして、道路のほうの問題にいきたいと思います。先ほどの狭い道路につきまして、セットバックという言葉が出てきましたけれども、そちらのついての御説明をお願いしたいと思います。

○議長（森川雅之君） 都市建設部長 佐久間静夫君。

○都市建設部長（佐久間静夫君） セットバックにつきましては、建築基準法の規定になるものでございますが、基準法に基づいて指定されております4メートル未満の道路について、その中心線から2メートルセットバックした場合は、そこを道路の境界線とみなすことによって建築が認められるということになっております。したがって、両側がそれぞれセットバックしながら建物を建ててまいりますと、最終的には4メートルの道路ができ上がるというようなことでございます。

○議長（森川雅之君） さらにありますか。前田正志議員。

○8番（前田正志君） ありがとうございます。セットバック、よく聞く言葉でして、建て替えとか、そういうときに限られるようですので、地権者さんとの兼ね合いとか予算の関係もあるということでございますので、行く行くは4メートルになるんだというような御説明だと思いますけれども、なかなか進まないのかなというような印象でございます。

続きまして、宅地開発時に道幅とかもちろん決めていくかと思うんですけれども、狭いところは、当時はそういうのがあったのかなかったのかわかりませんが、今後、宅地開発時については、この道幅の指導についてはどのようになっているのかをお聞かせください。

○議長（森川雅之君） 都市建設部長 佐久間静夫君。

○都市建設部長（佐久間静夫君） 宅地開発につきましては、1000平方メートル以上3000平方メートル未満の開発につきましては、こちらは市の宅地開発指導要綱に基づきまして、道路幅員を5メートル以上確保するように指導しております。また、都市計画法による開発許可が必要な3000平方メートル以上の開発につきましては、県のほうで6メートル以上の道路を確保するように指導しているところでございます。

○議長（森川雅之君） 前田正志議員。

○8番（前田正志君） ありがとうございます。今後は、宅地開発をする際には5メートルなり6メートルなりという理解をいたしました。

特にこういった狭い道路につきましては、人命とか身体に関わるような危険なこともありますので、先ほど質問した消防、水利のこととか、そういったことについても御配慮いただければと思います。

続きまして、排水対策のほうに移らせていただきます。先ほどのお話の中で、要望箇所が180カ所で、60カ所が整備済みということでございますけれども、こちらの対策の際の優先順位、いわゆる箇所づけと申しますか、そういった基準についてはどのようになっているのかお聞かせください。

○議長（森川雅之君） 都市建設部長 佐久間静夫君。

○都市建設部長（佐久間静夫君） 基準につきましては、浸水の深さですとか広さ、頻度、浸水時間の長さ、そういったことで市民生活に与える影響の大きさにより箇所づけを行っているところでございます。

○議長（森川雅之君） 前田正志議員。

○8番（前田正志君） ありがとうございます。いろいろな基準があると思いますので、予算の関係とか技術的なこととかいろいろと対策の優先順位というのは承知をいたしました。ただ、そういった条件により排水対策が長期にわたってとられていない場所が幾つかあろうかと思えますけれども、そのあたりの対応策、もちろん個々に検討されているということでよろしいのでしょうか。お願いします。

○議長（森川雅之君） 都市建設部長 佐久間静夫君。

○都市建設部長（佐久間静夫君） 以前から浸水が確認されております地区のうち、早野、東茂原、小林地区の3カ所の排水路につきまして、測量と排水計画検討業務を委託いたしまして、浸水対策の検討を行ったところでございます。

○議長（森川雅之君） 前田正志議員。

○8番（前田正志君） ありがとうございます。正直申しまして、私の地元であります東茂原も水に悩まされている地域でございますので、こういった委託をしたということで話が進んでいるということで安心をいたしました。こういった進捗がありましたら、また地元への説明のほうをお願いしたいと思いますし、今後いろいろと対策がとられるんでしょうけれども、対策をとられていない地域への御説明をぜひともお願いしたいと思います。こちらは要望でございます。

最後に、東茂原とか東部台もそうですけれども、新茂原駅周辺など、新しく住宅が開発された地域では、新しく家が建つということは、それまでは雑木林だったり水田だったりしたよう

なところがなくなるわけですから、治水の能力が落ちますので、排水口とかが間に合わないところもありますので、新しい住宅地での排水対策の要望にも誠実に対応いただければと思います。

以上で私の質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（森川雅之君） 以上で前田正志議員の一般質問を終わります。

ここでしばらく休憩します。

午前11時05分 休憩

————— ☆ ————— ☆ —————

午前11時15分 開議

○議長（森川雅之君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、田畑 毅議員の一般質問を許します。田畑 毅議員。

（3番 田畑 毅君登壇）

○3番（田畑 毅君） 皆さん、こんにちは。もばら21の田畑 毅です。通告に従いまして、一般質問をいたします。

まず初めに、水害対策についてお聞きします。

今年もこれまで台風が上陸し、日本の各地で甚大な被害をもたらしております。近年の台風はエルニーニョの影響か、大型化しているように思われます。本市も平成25年の台風26号の影響で甚大な水害被害をこうむりました。一宮川流域懇談会を発足し、一宮川流域の市町村、そして県とともに一宮川の氾濫による水害を防ごうとしているところですが、県の対策は、20年のスパンでの一宮川の改修ということです。その間、またいつ台風が来て水害をもたらすかもしれません。被害に遭われた周辺住民の方々は、一日も早い水害対策を望んでおります。

そこで、初めに、河川の水害対策の進捗状況についてお聞きします。一宮川水系の状況はどのようなになっているのかお聞かせください。

次に、本市は平成26年度に国土交通省の「100mm/h安心プラン」に登録しました。平成26年度の登録件数は、全国で6県のみです。否が応でもこのプランに登録したことで水害対策の計画スパンが短くなるのではないかと期待してしまいます。「100mm/h安心プラン」に登録したことによって、水害対策の計画がどのように変わったのか御説明ください。

また、河川の氾濫による水害が甚大なため見落とされてしまいがちですが、水害は河川の氾濫によるものだけではございません。道路排水や下水道の問題が要因による内水問題に長年悩

んでいる地域もございます。たびたびこの問題に関して質問させていただき、このような内水問題の対策に前向きな回答をいただきました。道路排水や下水道の要因による内水問題の対策の進捗状況についてお聞かせください。

次に、企業誘致促進事業と観光事業について質問いたします。

産業の発展は豊かなまちづくりに欠かせないものですが、雇用創出するのはもちろんのこと、消費も拡大します。本市でも、企業誘致促進事業と観光事業に力を入れることは急務だと思われます。

まず初めに、旧茂原工業高校跡地を取得し企業誘致を行っていく計画ということですが、その計画の今後のスケジュールをお聞かせください。

続いて、平成29年完成予定の茂原にはる工業団地についてですが、この茂原にはる工業団地の進捗状況についてお聞かせください。

次に、七夕のまち茂原とうたっている本市にとって、茂原七夕まつりは夏の最大の観光事業です。それに伴い、今年2月に初めての試みで茂原冬の七夕まつりを開催しました。この茂原冬の七夕まつりの成果はどうだったのかをお聞かせください。

続きまして、人口減少問題についてお聞きします。

地方の市町村にとって人口減少は切実な問題です。特に生産人口や子供の人口が減り、高齢化の進行が顕著です。本市も例外ではございません。若い世代の方々の定住促進は急務となっております。本市は、平成25年度から人口減少問題対策プロジェクトチームを発足させ、この問題に対応してきました。本年度の茂原市人口減少問題対策プロジェクトチームの進捗状況はどのようになっているのか、お聞かせください。

次に、小中学校の空調設備についてお聞きします。あるアンケート調査で、若い世代の方々が定住先を決めるとき重要視するポイントは、教育、医療、産業と出ておりました。とりわけ若い世代の方々はお子様の教育環境に対して大変関心を持っております。若い世代の方々が定住先を選考する上で小中学校の普通教室に空調設備を配置し、教育の場でのハードの部分をPR材料とする考えはないのかお伺いします。

最後に、今度はハードではなくソフトの面で、市として、教育面で他の市町村と差別化を図り、若い世代の方々の転入促進につなげるような考えはないのかお伺いします。

以上で私の1回目の質問を終わりにします。御答弁よろしくお願ひいたします。

○議長（森川雅之君） ただいまの田畑 毅議員の一般質問に対し当局の答弁を求めます。

市長 田中豊彦君。

(市長 田中豊彦君登壇)

○市長(田中豊彦君) 田畑 毅議員の一般質問にお答えさせていただきます。

まず、企業誘致促進事業と観光事業についての中で、旧茂原工業高校跡地における企業誘致の今後のスケジュールについての御質問でございますが、千葉県より用地を取得する予定であり、取得後、周辺整備のための測量等を実施し、売り渡し面積の確定作業を行ってまいります。その後、公募型プロポーザル方式により募集を開始し、年度内に事業予定者を決定する予定でございます。

次に、茂原にはる工業団地の進捗状況についての御質問でございますが、今年1月に発注いたしました仮設道路工事が完成し、現在は地盤改良工事や暗渠排水工事を実施しており、平成29年度の販売に向けて工事は順調に推移しているところでございます。今後は、造成工事や調整池工事を実施するなど、千葉県と連携して事業の推進に努めてまいります。

私からは以上でございます。

○議長(森川雅之君) 都市建設部長 佐久間静夫君。

(都市建設部長 佐久間静夫君登壇)

○都市建設部長(佐久間静夫君) 都市建設部所管に関わります水害対策についての御質問に御答弁申し上げます。

初めに、河川の水害対策の進捗状況について、一宮川水系での状況はどのようになっているのかとの御質問でございますが、一宮川につきましては、茂原市街地を対象とした浸水対策として、第2調節池の増設、阿久川合流点付近の改修、鶴枝川合流点から第2調節池までの堤防嵩上げを「100mm/h安心プラン」に登録し、それらを重点的に実施することとしております。阿久川につきましては、長尾地先において未改修区間約1.8キロメートルの改修が進められており、今年度は獅子吼橋上流の護岸工事45メートルが予定されております。また、鶴枝川につきましては、鶴枝橋上流の野牛地区において未改修区間約70メートルの改修が進められており、今年度は護岸工事30メートルが予定されております。市といたしましては、改修事業の早期完成と竹木の繁茂が著しい箇所を早期改善を引き続き県に要望してまいりたいと考えております。

次に、「100mm/h安心プラン」の登録によって水害対策の計画がどのように変わったのかとの御質問でございますが、一宮川の河川整備計画につきましては、河口から豊田川合流点までの改修及び第2調節池の容量の増設を概ね20年の期間で行うこととなっておりますが、「100mm/h安心プラン」に登録することで国からの交付金が優先的に交付されることから、第2調節池の増設等の整備について5年から10年で実施することが可能となったところでござい

ます。

次に、道路排水や下水道の要因による内水問題対策の進捗状況についての御質問でございますが、内水被害が発生した排水路3カ所について、現地の確認及び測量調査により既存の排水路と周辺の地盤高など浸水地区の状況を把握し、浸水の要因と軽減対策を検討したところでございます。以上でございます。

○議長（森川雅之君） 経済環境部長 西ヶ谷正士君。

（経済環境部長 西ヶ谷正士君登壇）

○経済環境部長（西ヶ谷正士君） 経済環境部所管に関する冬の七夕の成果はどうだったのかという御質問でございます。もばら冬の七夕まつりは、今年2月14日のバレンタインデーにあわせて「ちょっと大人な七夕まつり」をテーマに、市民会館周辺で初めて実施したイベントです。2週間前から会場周辺と天の川をイルミネーションで飾りつけ、当日はステージイベントや特産物の販売などを行い、家族連れから若いグループまで多くの方に足を運んでいただいたところでございます。今回、冬のイベントを加えたことにより、春の桜まつり、夏の七夕まつり、秋まつり、冬の七夕まつりと、四季を通して本市の魅力を発信することができ、新たなPRができたものと考えております。以上です。

○議長（森川雅之君） 企画財政部長 岡澤与志隆君。

（企画財政部長 岡澤与志隆君登壇）

○企画財政部長（岡澤与志隆君） 企画財政部所管に関わります御質問にお答え申し上げます。

人口減少問題についての中で、人口減少問題対策プロジェクトチームについての進捗状況はという御質問ですが、人口減少問題対策プロジェクトチームにつきましては、平成27年度から茂原市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定の中で人口減少問題対策を行うこととしたため、今年度は設置しておりませんが、係長級の職員を中心として設置した総合戦略策定作業部会が同プロジェクトチームに相当する役割を担っております。現在、平成25年度、平成26年度の人口減少問題対策プロジェクトチームからの提案で、採択されなかったもの等について、作業部会で具体的な施策とすべく検討しているところでございます。以上です。

○議長（森川雅之君） 教育長 内田達也君。

（教育長 内田達也君登壇）

○教育長（内田達也君） 教育関係の御質問についてお答えします。

定住先選考材料としての教育のハード面ですが、学校は児童生徒が1日の大半を過ごす学習、生活の場であるとともに、被害時には地域住民の避難場所としての役割も果たしていることか

ら、今年度末までに学校施設の耐震化を完了させることを最優先に取り組んでまいりました。今年度末で耐震化は完了し、安心していただける状況となります。空調設備につきましては、学校医等の専門家や学校現場からの意見、県内他市等の状況を見ながら調査研究を進めてまいりたいと考えております。

次に、教育内容面で本市の特色を示すということでは、これからの英語教育の拡充や国際化推進に向けて、小学校低学年からの外国語活動の導入を図るためのE L T、英語指導講師の増員や、子供の豊かな感性を育む読書活動を推進するために学校図書館司書を新たな配置することなどを、近隣市町村に先駆けて検討してまいりたいと考えております。

教育については以上でございます。

○議長（森川雅之君） 再質問ありますか。田畑 毅議員。

○3番（田畑 毅君） まず、水害対策について再質問いたします。一宮川水系での水害対策の状況についての質問で、県に改修事業の早期完成を要望していくとの回答でしたが、それぞれの完成予定時期をお聞かせください。

○議長（森川雅之君） 都市建設部長 佐久間静夫君。

○都市建設部長（佐久間静夫君） 一宮川につきましては、先ほど御答弁させていただいたとおりでございます。今のところの予定でございます。阿久川につきましては、昨年度から工事が着手されたところでございますので、現時点で完成時期をお示しできるような状況にはないとのことでございます。また、鶴枝川につきましては、3年程度で完成する見込みと伺っております。以上でございます。

○議長（森川雅之君） さらにありますか。田畑 毅議員。

○3番（田畑 毅君） 被害住民の方は、当然ですが、早期完成を願っています。竹木の繁茂が著しい状況の早期改善も含め、引き続き県に要望をしていただきたく思います。これは要望です。

次に、「100mm/h安心プラン」の登録によって計画がどのように変わったのかとの質問の回答で、第2調節池の増設等との答弁でしたが、この他に計画されているものはどのようなものがあるかお伺いします。

○議長（森川雅之君） 都市建設部長 佐久間静夫君。

○都市建設部長（佐久間静夫君） 県が行う一宮川の対策といたしましては、先ほど申し上げました第2調節池の増設のほかに阿久川合流点付近の改修、並びに鶴枝川合流点から第2調節池までの堤防の嵩上げとなっております。また、市が行う対策といたしましては、下水道事業

として、川中島下水処理場に設置されている雨水ポンプの能力増強及び八千代通りに埋設されております雨水管の能力増強、河川事業として、準用河川梅田川の排水ポンプの設置を計画しております。

○議長（森川雅之君） 田畑 毅議員。

○3番（田畑 毅君） 「100mm/h安心プラン」の登録にはたくさんの市民が期待しております。引き続き水害対策の早期完成に努力していただけるようお願いいたします。

続いて、内水問題の進捗状況についての答弁で、浸水の要因と軽減対策を検討したということですが、要因と軽減対策はどのようなものなのか、具体的にお聞かせください。

○議長（森川雅之君） 都市建設部長 佐久間静夫君。

○都市建設部長（佐久間静夫君） 早野、東茂原及び小林地区の3カ所の浸水対策を検討いたしましたところ、3地区とも平坦な地形で、既存の排水路の勾配が緩く、排水能力が低いことが主な要因として上げられました。このことから、排水路の断面を大きくすること等によりまして排水能力が向上し、被害の軽減が図られるとの検討結果となっております。

○議長（森川雅之君） 田畑 毅議員。

○3番（田畑 毅君） この軽減対策の着工事業は、いつごろになるのかお伺いします。

○議長（森川雅之君） 都市建設部長 佐久間静夫君。

○都市建設部長（佐久間静夫君） 着工時期につきましては、それぞれの対策の実施に多額の費用と期間を要する事業でございますので、これを計画的に進めていく必要があると考えております。その中で、一宮川など河川沿いで被害の大きかった水門等、現在最優先で取り組んでいる内水対策の状況を踏まえまして検討してまいりたいと考えております。

なお、そうした中でネック部など、排水不良箇所の部分的な改修をすることによりまして大きな効果が得られるようなところにつきましては、順次改修してまいりたいと考えております。

○議長（森川雅之君） 田畑 毅議員。

○3番（田畑 毅君） 周辺住民の方々は何年もの間、この内水問題に悩んでいます。ネック部と判明したところの改修だけでも一刻も早い着工を強く要望いたします。

次に、企業誘致促進事業と観光事業についての再質問をいたします。

旧茂原工業高校跡地の企業誘致計画ですが、プロポーザル方式による募集にあたり、募集業種はどのように考えているのかお聞かせください。

○議長（森川雅之君） 経済環境部長 西ヶ谷正士君。

○経済環境部長（西ヶ谷正士君） 計画地は住宅が隣接しておりますので、製造業の中でも住

宅環境を阻害しない業種を考えております。

○議長（森川雅之君） 田畑 毅議員。

○3番（田畑 毅君） 現在、跡地は住宅系の用途地域となっておりますが、今後どのように変更されるのか、また、地区計画は考えているのかお聞かせください。

○議長（森川雅之君） 都市建設部長 佐久間静夫君。

○都市建設部長（佐久間静夫君） 当該地区につきましては、茂原市都市計画マスタープランにおきまして、工業系の土地利用地区に位置づけており、地域の発展、雇用の確保等に必要な工業の利便増進を図るため、用途地域を準工業地域へ変更する予定であります。また、地区計画につきましては、良好な工業環境を誘導するとともに、周辺の居住環境や自然環境と調和した市街地の形成を目標として土地利用の方針を定め、危険性の少ない工場を誘致するため、建物等の用途や壁面の位置、敷地内の緑化率等を定める予定であります。今後、来年3月の変更に向け手続きを進めてまいります。

○議長（森川雅之君） 田畑 毅議員。

○3番（田畑 毅君） 事業予定者を決める審査委員会における審査委員は、どのような方を考えているのかお伺いします。

○議長（森川雅之君） 経済環境部長 西ヶ谷正士君。

○経済環境部長（西ヶ谷正士君） 事業予定者を決定するための審査委員会設置要綱を策定いたします。この中で委員につきましては、学識経験者、経営分析の専門家、地元商工団体の関係者、行政関係者2名を含めた5名で組織したいと考えております。

○議長（森川雅之君） 田畑 毅議員。

○3番（田畑 毅君） 次に、茂原にはる工業団地についてですが、企業誘致の進捗状況はどのようになっているのかお聞かせください。

○議長（森川雅之君） 経済環境部長 西ヶ谷正士君。

○経済環境部長（西ヶ谷正士君） 企業誘致の現状でございますけれども、現在、数件の問い合わせが千葉県、また本市にもございます。今後も、企業への訪問、また民間調査業者から企業における事業の拡大に関する情報を入手いたしまして、積極的な誘致活動に努めていきたいと思っております。

○議長（森川雅之君） 田畑 毅議員。

○3番（田畑 毅君） この茂原にはる工業団地の工業用水はどのようになっているのかお伺いします。

○議長（森川雅之君） 経済環境部長 西ヶ谷正士君。

○経済環境部長（西ヶ谷正士君） 茂原にはる工業団地の事業化を決定した際に、千葉県企業等誘致推進本部は、工業用水の引き込みについては百数十億円という莫大な経費がかかることから、当初から計画はしておりません。したがって、本団地につきましては、基本設計の段階から給水の制約を考慮いたしました業務の選定を検討しております。

○議長（森川雅之君） 田畑 毅議員。

○3番（田畑 毅君） 企業誘致促進事業の成功は、豊かなまちづくりには欠かせないものです。引き続きの努力をお願いします。

続いて、もばら冬の七夕まつりについてですが、この時期のイベントとしては異例のたくさんの方に足を運んでいただいて好評を得たということですが、今年度の開催予定はありません。七夕のまち茂原とうたっている以上、ぜひ、もばら冬の七夕まつりも続けて開催していただきたいと思います。これは要望です。

次に、人口減少問題について再質問いたします。

総合戦略策定作業部会の人数と、その中に中学生以下のお子さんを持ちの方は何人いるのかお伺いいたします。

○議長（森川雅之君） 企画財政部長 岡澤与志隆君。

○企画財政部長（岡澤与志隆君） 作業部会のメンバーは22名でありまして、このうち中学生以下の子供を持つ職員は10名でございます。以上です。

○議長（森川雅之君） 田畑 毅議員。

○3番（田畑 毅君） さきの人口減少問題対策プロジェクトチームについては、若い世代の意見を取り入れるということで若手職員で対応していましたが、この作業部会にも10人の中学生以下のお子さんを持っている方がいると聞いて、安心しました。この作業部会に大いに期待しています。頑張ってください。

次に、小中学校の普通教室に空調設備を配置し、教育の場のハードの部分でPR材料にする考えはないのかと質問の答弁で、学校は災害時には地域住民の避難場所としての役割も果たしているとありましたが、夏の災害時の避難場所としても想定できるので、せめて扇風機の台数を増やすことはできないのかお伺いいたします。

○議長（森川雅之君） 教育部長 野島 宏君。

○教育部長（野島 宏君） 各小中学校におきましては、普通教室には概ね扇風機を配置できていると考えておりますが、今後さらなる増設に向けて取り組んでまいりたいと思います。以

上です。

○議長（森川雅之君） 田畑 毅議員。

○3番（田畑 毅君） 普通教室には概ね扇風機を配置できているとのことですが、市が配置したわけではなく、学校側が学校予算の中から独自に購入したり、教員が持参したり、PTA予算から購入したりしているのではないのかお聞きします。

○議長（森川雅之君） 教育部長 野島 宏君。

○教育部長（野島 宏君） 扇風機につきましては、基本的には、配当された学校予算で対応してきておりますが、学校によっては、お話があったように、寄贈していただいたり、PTA会費で購入していただいたり、また、教員が持ち込んだりするという状況もございます。今後につきましては、学校の状況を把握した中でさらなる増設に取り組んでまいりたいと考えております。以上です。

○議長（森川雅之君） 田畑 毅議員。

○3番（田畑 毅君） 普通教室に配置されている扇風機も、大体が家庭用の扇風機と聞いております。長生村が小中学校の普通教室に空調設備を完備しました。莫大な費用がかかるエアコンとは言いませんが、茂原市として教室全体に風が行き渡るようなシーリングタイプの扇風機や壁掛けタイプのようなものを配置していただけたらと思います。このことを強く要望いたします。

もしこの施策が人口減少問題解決の一助にならなくても、次代を担う子供たちのためには確実になることです。ぜひよろしく願いいたします。

次に、市として教育面で他の市町村と差別化を図り、若い世代の転入促進につなげる質問に対する答弁の中の検討事項以外で、例えばスポーツ促進などを手段の1つとして考えることはできないのかお伺いいたします。

○議長（森川雅之君） 教育部長 野島 宏君。

○教育部長（野島 宏君） スポーツ面では、現在、（仮称）茂原市スポーツ推進計画を策定中でございます。その中に示してあります14の基本施策を推進することによりまして、子供たちをはじめ、各世代の方々にとりましても推進計画の基本理念であります市民1人1スポーツ、スポーツを楽しみ健康で元気あるまち茂原を実感できるよう、スポーツ振興に努めてまいりたい。また、同時に、ホームページ等を通して内外に発信してまいりたいと考えております。以上です。

○議長（森川雅之君） さらにありますか。田畑 毅議員。

○3番（田畑 毅君） このような教育面での施策は、先ほども話しましたが、人口減少問題の解決策にならなくても確実に次代を担う子供たちにとってプラスにはなります。ぜひこのような施策を推し進めていくことを強くお願いいたします。頑張ってください。

以上で私の一般質問を終わります。御答弁ありがとうございました。

○議長（森川雅之君） 以上で田畑 毅議員の一般質問を終わります。

ここでしばらく休憩します。

午前11時49分 休憩

☆ ☆

午後1時00分 開議

○議長（森川雅之君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、細谷菜穂子議員の一般質問を許します。細谷菜穂子議員。

（13番 細谷菜穂子君登壇）

○13番（細谷菜穂子君） 皆様、こんにちは。細谷菜穂子でございます。

連日の天候不順、台風の被害や千葉市で突風の被害に遭われた皆様には、お見舞いを申し上げます。

7月、8月と大変暑い日が続きました。これは明治8年統計開始以来のことだそうでございます。かと思うと、8月の後半からは非常に天候が悪く、台風が続いて、温度が下がってまいりました。天候不順で皆様もいろいろと体のことが大変ですけれども、みんなで頑張ってまいりたいなというふうには思っております。

それから、国会ですけれども、御承知のとおり、山場を迎えております。日本のためになる、国益になる審議を望みます。

それでは、通告に従いまして、細谷菜穂子の一般質問を始めさせていただきます。

まず、大きな1番目、児童虐待の防止についてでございます。

児童虐待は、家庭の問題と言えば家庭の問題なんですけれども、ここに全国の児童相談所の現状があるんですけれども、お話をさせていただきます。全国の児童相談所に相談があった件数が平成2年には1000件でございましたけれども、平成27年度は7万件でございます。70倍に増えておるといふ現実でございます。

児童虐待の内容でございますけれども、虐待といいましてもいろいろな種類があるんです。心理的虐待は38%、身体的虐待32%、ネグレクト、つまり育児を放棄するという虐待については26%、性的虐待は2%でございます。

それでは、その虐待を受ける子供たちの年齢の構成はどのようなかということですが、圧倒的に小学生が多いです、35%、続いて、3歳から小学校に上がる前までの子供たちが23%、ゼロ歳から3歳未満までが19%、中学生が14%、高校生が7%という数字でございます。

それでは、虐待をしてしまう人は誰なのかということですが、実際の子供のお母さんが54%でございます。それから、実際のお父さんが31%でございます。実際のお父さん以外の父たる人によるのは6%でございます。そのような数字があるわけです。

どうしてそういう虐待が起こるのか。ニュースでも連日のように、子供を揺さぶったりとか、あるいは死に至るといふのがあつてはすけれども、大きく原因について3つ考えられると私は思つております。

1つは、その家族が地域から孤立しているのではないのでしょうか、あるいはひとり親かもしれません。夫婦の仲が悪いということもあるかもしれませんけれども、孤立して、子育ての不安を1人で背負つてしまつていふのが原因の大きな1つに挙げられると思つております。この茂原市にいろいろなところからお嫁に来て、ママ友とか、趣味を通していろいろなお友達ができる、そういう性格の人ばかりではないわけでありまして、孤立してしまふというのが一番の原因だと思つております。

それから2番に、望まない妊娠ということも考えられるでしょう。本当にかわいければ、虐待とか、そういうことはできないはずであります。望まない妊娠ということも考えられるかもしれません。

それから3つ目としては、虐待の連鎖という心理的なこともあると言われております。どういふことかと申しますと、虐待をしてしまふお母さんが、自分が子供のころに誰かから虐待を受けた経験があつて、そしてそのお母さんが母親になり、母親になつてどう自分の子供と向き合つていくのかわからなくなつてしまふ、そういう心理になつてしまふ。そうすると、子供を愛せない、そういう気持ちになつて自然と手が出てしまふという現象、虐待の連鎖ですけれども、そういうふうなことも考えられると言われております。

毎日のように、日本のどこかでこういう虐待ということがニュースになつております。これはなくさなければならぬ、減らさなければならぬと思つております。

そこでお伺いをいたします。全国的に児童虐待の相談件数が、先ほど言いましたように、右肩上がりに増加してあります。茂原市の現状について、まずお伺いをいたします。

次に、(2)といたしまして、今後の取り組みについてでございます。児童虐待防止に向けて、今、茂原市はどのように取り組んでおられるのかお伺いをいたします。

次に、大きな2番目でございます。茂原市まち・ひと・しごと創生総合戦略、地方創生でござりますが、御存じのように、10月末を目標に総合戦略骨子案を作成していると思っておりますが、その進捗状況をお伺いいたします。

それから、大きな3番目でございます。茂原市内の道路には白線の薄い箇所が非常に多く見受けられます。いろいろな市民の方から御意見をいただいております。どこがというふうな場所よりも、茂原市内をいろいろと歩いてみますと、薄いところがたくさんあります。特に子供たちが通う通学路のところは安全が一番でございます。白線の補修はどのように現在行っているのかお伺いをいたします。

次に、4番目といたしまして、茂原公園の道表山のシンボルとなる展望台設置の方向性についてでございます。

さくらの名所100選でもある、我が茂原公園は、先日の地方創生の市民アンケートを見ますと、70%近い人が茂原公園は好きである、人気があるという回答があったというふうに認識しております。その茂原公園のシンボルとして、道表山の上に前は展望台がございました。いろいろな方から、国道を走ると、あるいは茂原の町から道表山を見ると、ちょっと寂しいねという声を多分に聞きます。その展望台が撤去されて久しいわけでございますが、その展望台設置に関する茂原市の現状は現在どのようになっているのかお伺いをいたします。

それから、次の5番目でございます。茂原市は暑いということで非常に有名でもございますが、暑いなら暑くても、暑さ対策のグッズとか、茂原市独自のものを開発すれば観光にもいろいろな意味でアピールできるのではないかなというふうには考えますが、結局、熱中症対策に方向的にはなると思っておりますが、熱中症対策の茂原市の取り組みについてお伺いをいたします。

以上で1回目の私の質問を終わります。よろしくお願いを申し上げます。

**○議長（森川雅之君）** ただいまの細谷菜穂子議員の一般質問に対し当局の答弁を求めます。

市長 田中豊彦君。

（市長 田中豊彦君登壇）

**○市長（田中豊彦君）** 細谷菜穂子議員の一般質問にお答えさせていただきます。

私からは、茂原市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗についての中で、総合戦略の進捗状況についての御質問でございますが、本市では、これまで市民や企業などを対象に幅広くアンケート調査を実施し、その結果を分析することにより、地域の課題や特性の把握に努めるとともに、外部の有識者で構成する推進会議を開催し、専門的な御意見を伺ってまいりました。また、庁内では作業部会、幹事会、策定会議を開催し、それぞれの場において検討と協議を重

ね、このほど人口ビジョン及び茂原市総合戦略の骨子案をまとめたところでございます。今後は、総合戦略として盛り込む具体的な取り組みをさらに検討し、10月中にその素案を策定してまいりたいと考えております。

私からは以上でございます。

○議長（森川雅之君） 福祉部長 鈴木健一君。

（福祉部長 鈴木健一君登壇）

○福祉部長（鈴木健一君） 福祉部所管の御質問に答弁させていただきます。

初めに、児童虐待相談件数の市の現状はという御質問にお答えいたします。本市における児童虐待相談件数につきましては、過去3年間で見ますと、平成24年度は23件、平成25年度は19件、平成26年度は82件となっております。特に平成26年度は前年度と比べ約4倍に増加しており、また、相談種別の内訳といたしましては、心理的虐待が30件、身体的虐待が28件、ネグレクトは24件となっております。

次に、児童虐待防止に向けての市の取り組みはどの御質問にお答えいたします。児童虐待防止に向けた取り組みといたしましては、現在、県が作成した千葉県子ども虐待対応マニュアルに基づき、さまざまなケースに対応しております。今後の取り組みといたしましては、虐待の早期発見に重点を置き、今年7月から開設された児童相談所全国共通ダイヤル189番の周知など、より多くの市民の皆様から情報提供いただけるよう啓発を充実してまいります。

また、日ごろから子供との関わりの深い小中学校や保育所、幼稚園など、虐待を発見しやすい関係機関に対しましては、さらなる連携強化を図ってまいります。以上でございます。

○議長（森川雅之君） 都市建設部長 佐久間静夫君。

（都市建設部長 佐久間静夫君登壇）

○都市建設部長（佐久間静夫君） 都市建設部所管に関わります御質問に御答弁申し上げます。

初めに、市内道路の白線の薄い箇所はどのように行っているのかとの御質問でございますが、区画線等の引き直しにつきましては、自治会等からの要望や道路パトロールにより実施箇所を選定しております。また、今年8月に行われた通学路安全推進会議におきまして、多くの要望を受けておりますので、自治会等からの要望箇所と合わせ早期実施に向けて取り組んでまいりたいと考えております。

次に、茂原公園道表山に設置していた展望台が撤去されて久しい中、その展望台設置に関する現状はという御質問でございますが、当該展望台につきましては、昭和52年に建設され、約30年が経過し、施設の老朽化により安全性の確保ができなくなったことから、平成19年度の市

政55周年記念事業として施設の更新を検討いたしましたが、設置費用が高額となることや、財政健全化計画の期間中でもありましたので、新設を断念し現在に至っておるところでございます。以上でございます。

○議長（森川雅之君） 市民部長 相澤 佐君。

（市民部長 相澤 佐君登壇）

○市民部長（相澤 佐君） 市民部所管に関わります熱中症対策の取り組みについての御質問に御答弁申し上げます。

本市の熱中症対策の取り組みといたしましては、市民への熱中症予防の情報提供を市のホームページ、広報誌及び茂原駅前のビジョン茂原により行っております。また、市で行っている成人の健康診査、子供の健診時にパンフレットを配布し周知に努めております。特に熱中症の危険が高い猛暑日につきましては、防災行政無線により注意喚起を図ったところでございます。以上でございます。

○議長（森川雅之君） 再質問ありますか。細谷菜穂子議員。

○13番（細谷菜穂子君） ありがとうございます。それでは、児童虐待防止についての再質問からさせていただきます。情報提供していただけるよう啓発を充実していくとのことですが、もう少し具体的に教えてください。

○議長（森川雅之君） 答弁を求めます。福祉部長 鈴木健一君。

○福祉部長（鈴木健一君） 先ほども触れましたが、今年の7月から児童虐待の相談電話が覚えやすい3桁の番号、189「いち早く」と覚えていただきたいと思っております。おかけいただくと、近くの児童相談所につながります。これまでもポスターやチラシ、啓発物資などを活用して周知してまいりましたが、この189番が110番や119番と同様、市民の皆様に定着し、児童虐待の早期発見につながるよう引き続き周知、啓発してまいりたいと考えております。

また、今後の具体的な取り組みといたしましては、11月の児童虐待防止推進月間にあわせ、街頭による啓発チラシの配布を予定しており、市民の皆様に社会的関心の喚起が図られるよう、継続した広報啓発活動を充実してまいります。

○議長（森川雅之君） 細谷菜穂子議員。

○13番（細谷菜穂子君） 先ほどの答弁の中で、虐待を発見しやすい関係機関として、小中学校保育所、幼稚園としていますが、そのほかにもあるのではないかなというふうに思いますが、市の見解を伺います。

○議長（森川雅之君） 福祉部長 鈴木健一君。

○福祉部長（鈴木健一君） 本市では、関係機関などが児童虐待などの情報や考え方を共有し連携を図ることを目的とした茂原市要保護児童対策地域協議会を設置しております。本協議会は、学校、保育所、幼稚園をはじめ、警察、消防、民生委員、医師会など関係機関の代表22名で構成され、定期的に会議を開催し情報交換並びに相互の連絡協力を図っているところでございます。

○議長（森川雅之君） さらに質問ありますか。細谷菜穂子議員。

○13番（細谷菜穂子君） 児童虐待と申しますと、児童相談所ですが、近くの東上総児童相談所と茂原市の連携について伺います。

○議長（森川雅之君） 福祉部長 鈴木健一君。

○福祉部長（鈴木健一君） 市と児童相談所は、ともに虐待対応の主体者であることを認識し、情報共有や同行訪問など、日々連携を図っております。特に東上総相談所が市内に設置されていることから、地域に密着した行政機関としての役割も担っていただいているところでございます。今後も引き続き連携を密にしながら虐待の発生予防、早期発見に向けて取り組んでまいります。

○議長（森川雅之君） 細谷菜穂子議員。

○13番（細谷菜穂子君） 東上総児童相談所には、茂原市の児童は何名関わっておりますか。

○議長（森川雅之君） 福祉部長 鈴木健一君。

○福祉部長（鈴木健一君） 8月末現在で89名の児童が関わっております。

○議長（森川雅之君） 細谷菜穂子議員。

○13番（細谷菜穂子君） いろいろな状況、いろいろな中で児童相談所に入っているわけですが、3日、4日前の千葉日報にも出ておりました。市原市のほうでしたけれども、児童相談所に入っていて、児童相談所を出て1か月後に殺されているんですよ。そういう事件がありましたね。そういうことを踏まえますと、児童相談所を退所するのはどういう線引きと申しますか、処理と申しますか、児童虐待の対応処理が終了する目安をどういうふうに捉えていますか。

○議長（森川雅之君） 福祉部長 鈴木健一君。

○福祉部長（鈴木健一君） 児童虐待の関わりの終了の判断につきましては、先ほど申し上げました茂原市要保護児童対策地域協議会の実務者会議の中で、ケースごとに協議の上、決定しております。実務者会議は、児童相談所、子育て支援課、教育委員会、保健センター、保育所など、当該児童と関わりのある関係機関で構成され、全てのケースについて定期的に進行管理

を行っております。児童虐待の対応処理が終了する目安といたしましては、保護者と児童それぞれの継続した関わりの中で児童の安全な環境が確保され、その後も児童の状況が確認できる体制が整備された場合に終了しております。

○議長（森川雅之君） 細谷菜穂子議員。

○13番（細谷菜穂子君） これは要望で構いませんけれども、先ほども言いましたように、一旦解決といいましても、最悪の状態になる場合もあるし、これは誰もわからない部分ももちろんありますけれども、児童虐待防止というのは非常に今重要なことでございます。児童虐待防止法が平成12年に施行されておりますが、それから15年たっているわけです。そういう認識も広まって相談が増えているということなんでしょうけれども、行政ももちろんそうですけれども、市民への啓発、市民一人一人の目が、かわいい命を救うわけでございます。虐待に限らず、この夏も中学生や高校生が殺されたというのがたくさんありました。そういう意味で、広く積極的に、茂原市は児童虐待がないという市になっていただくことを要望いたします。

次に移ります。2番目の茂原市まち・ひと・しごと創生総合戦略でございますが、人口のことがポイントになってくるわけですね。人口問題研究所によりますと、2040年には茂原市が7万くらいになってしまうというふうなことを言われておりますけれども、先ほどの答えで、骨子案がまとまったということですが、この人口ビジョンで、どの程度の人数を見込んでおりますか。

○議長（森川雅之君） 企画財政部長 岡澤与志隆君。

○企画財政部長（岡澤与志隆君） 本市の人口ビジョンでは、2040年の時点で8万5000人を見込んでおります。以上です。

○議長（森川雅之君） 細谷菜穂子議員。

○13番（細谷菜穂子君） 今の8万5000という数字でございますが、しっかりとした政策がなければなかなか難しいだろうというふうに考えられます。そのあたりをお伺いいたします。

○議長（森川雅之君） 企画財政部長 岡澤与志隆君。

○企画財政部長（岡澤与志隆君） 人口の将来展望を実現するためには、特に若い世代の経済的安定と出生率の向上を見据えた子育てしやすい環境の整備が重要であると考えております。したがって、総合戦略では雇用の場の創出に向けた成長産業の立地促進、既存企業の支援事業と安心して子育てできる環境づくりに重点を置いた施策を展開してまいりたいと考えております。

○議長（森川雅之君） 細谷菜穂子議員。

○13番（細谷菜穂子君） 人口を減らさないようにするというのも重要なポイントだろうと思います。このあたりは、市はどういうふうに考えていますか。

○議長（森川雅之君） 企画財政部長 岡澤与志隆君。

○企画財政部長（岡澤与志隆君） 今回の地方創生につきましては、地域の人口動向や将来人口推計の分析を行った上で、人口ビジョンと総合戦略を策定するものとされておりますので、議員がおっしゃるとおり、人口減少に歯どめをかける政策を展開することが重要であると考えております。

○議長（森川雅之君） 細谷菜穂子議員。

○13番（細谷菜穂子君） 今回、市民からのアンケートの結果を見させていただきました。それによりますと、企業誘致、子育ての環境、医療あたりが多かった。それから、3番目あたりが住宅の補助、あるいはリフォームの補助とか、そういうものが多かったように思います。茂原市の魅力を高めること、そして若者の雇用、働く場をつくり育てていくこと、そしてまた、よい教育をしている環境にあることが、地方創生について大事なことだろうと私は考えますが、そのあたりは、市の見解はどうでしょうか。

○議長（森川雅之君） 企画財政部長 岡澤与志隆君。

○企画財政部長（岡澤与志隆君） 本市では、雇用の場の確保と子育て支援の充実によりまして、若年世代の流入と出生率の向上を図るとともに、観光や教育の充実により、まちの魅力を高めていくことがより重要であると考えております。

○議長（森川雅之君） さらに質問ありますか。細谷菜穂子議員。

○13番（細谷菜穂子君） 自然増よりも社会増を目指す施策が大事だろうというふうに思います。その辺の施策を、環境をつくり上げていただきたいというふうに要望いたします。

次に移ります。市内の道路の白線の薄い箇所がございますが、先ほどの御答弁に、自治会等からの要望箇所があるということですが、それは今、何カ所程度ありますか。そしてまた、その対応はどうでしょうか。伺います。

○議長（森川雅之君） 都市建設部長 佐久間静夫君。

○都市建設部長（佐久間静夫君） 要望箇所につきましては、自治会からの要望と茂原警察署からの要請とがございます。今年度の要望箇所は、両方合わせまして現在9カ所でございます。警察からの要請を優先して実施しておるところでございますが、自治会からの要望も含めまして、今年度中には対応が可能だと考えております。

○議長（森川雅之君） 細谷菜穂子議員。

○13番（細谷菜穂子君） それからまた通学路安全推進会議からの要望があったということですが、その内容をお聞かせください。

○議長（森川雅之君） 都市建設部長 佐久間静夫君。

○都市建設部長（佐久間静夫君） 白線関係の要望箇所につきましては5カ所ありまして、内容につきましては、外側線やセンターラインのほか、交差点があることを示す十字のマーク、それからドット線の引き直しがございました。通学路の児童の安全を守るために、こちらについても早急に対応したいと考えております。

○議長（森川雅之君） 細谷菜穂子議員。

○13番（細谷菜穂子君） お金のかかることですけれども、先ほどの自治会等からの要望の9カ所、今年度中には全てできるということですから、それをお願いすることと、それから通学路になっているところ、そういったところも何かあってからでは遅い、手を打たなければならぬということ、お金には代えられないこともあるということも含んでおいていただきたいというふうに思います。できる限り早くやっていただきたいというふうに思います。

次に移ります。4番目の茂原公園の道表山のシンボルとなる展望台の設置についてのことで、先ほどの御答弁で、市制55周年に合わせての建設も検討していたということですが、そのときに市民アンケートとか、そういったものは行ったかどうか、市民の声を聞いたかどうかお伺いいたします。

○議長（森川雅之君） 都市建設部長 佐久間静夫君。

○都市建設部長（佐久間静夫君） 市民アンケートについては行っておりませんが、当時も展望台の再建を望む声があったということで、市民の声も含めて検討したと、そういうふうに聞いております。

○議長（森川雅之君） 細谷菜穂子議員。

○13番（細谷菜穂子君） 設置費用が高額だから断念したということなんでしょうけれども、新たな展望台を設置するのに、当時、費用はどれくらい見込んだのか。また、現在見込むとどれくらいの数字になるか教えてください。

○議長（森川雅之君） 都市建設部長 佐久間静夫君。

○都市建設部長（佐久間静夫君） 当時の設計では、展望台の本体の建設費、展望台の広場周辺及び管理用道路の整備費を含めて約5000万円がございました。これは同じもので現在に換算いたしますと、労務単価ですとか資材の高騰などがございまして、約7000万円と見込まれるところでございます。

○議長（森川雅之君） さらにありますか。細谷菜穂子議員。

○13番（細谷菜穂子君） そんなに高くない数字のような気もいたしますけれども、展望台の設置について、市としては今どういうふうに考えていますか。改めてお伺いいたします。

○議長（森川雅之君） 都市建設部長 佐久間静夫君。

○都市建設部長（佐久間静夫君） 展望台につきましては、現段階で設置の検討はしておりません。まずは老朽化しております弁天湖の護岸の整備ですとか、桜の更新に取り組んでまいりたいと考えております。

○議長（森川雅之君） 細谷菜穂子議員。

○13番（細谷菜穂子君） 今、地方創生、魅力ある茂原市づくりということが大きなテーマでございます。茂原市に行くと常に見られるシンボルがあると、それも1つの大きな目玉ではないでしょうか。そういうふうに思います。この時期をチャンスと捉えて検討したらどうかというふうに思いますが、改めてお伺いいたします。

○議長（森川雅之君） 都市建設部長 佐久間静夫君。

○都市建設部長（佐久間静夫君） 展望台の設置につきましては、今回の地方創生事業の中で行うということが制度上、非常に難しいことから、検討のほうはしておりません。

○議長（森川雅之君） 細谷菜穂子議員。

○13番（細谷菜穂子君） 魅力あるまちづくり、先ほど来から言っていますけれども、観光の目玉としても捉えて考えてはどうかというふうに思いますが、そういう見解からはどうですか。

○議長（森川雅之君） 都市建設部長 佐久間静夫君。

○都市建設部長（佐久間静夫君） 茂原公園につきましては、市民に親しまれる公園として、また本市における観光名所の1つであると認識しております。現在、藻原寺におきまして日蓮聖人像の建設計画を持っておりますので、こうしたことも含めて、展望台のあり方について調査研究してまいりたいと考えております。

○議長（森川雅之君） 細谷菜穂子議員。

○13番（細谷菜穂子君） ぜひ調査研究を大いにしていきたいというふうに思います。茂原公園は、2つの要素でなり立っているんだらうと私は考えます。1つは、弁天湖です。もう1つは、やはり道表山ではないかなというふうに思うんです。弁天湖の護岸の整備も確かに重要だと思います。展望台を大きなもう一つの要素として、道表山のシンボルといいましょうか、それに値するのではないのでしょうか。例えば、いすみ市の万木城にも展望台があったりします

けれども、いろいろなデザインももちろんあると思いますけれども、地域を特徴づける、ランドマークといいたいでしょうか、そういう役割を果たせるものというふうに考えます。都市建設部ではなくて観光部門で検討をされてはどうかというふうに思いますが、それは要望でいいです。これから視点を変えて、都市建設部ではなかなか。今、財政健全化というのが市長の努力で大分なくなりましたので、そういう面でも今がチャンスかなというふうには、あえて思って、今回のこの質問もさせていただいておりますので、その辺も含めまして、観光部門のほうで調査研究、これも頭に入れていただけたらというふうに思います。そのあたりはどうですか。お伺いいたします。

○議長（森川雅之君） 経済環境部長 西ヶ谷正士君。

○経済環境部長（西ヶ谷正士君） 担当の都市建設部と一緒に検討をしていきたいというふうに考えます。

○議長（森川雅之君） 細谷菜穂子議員。

○13番（細谷菜穂子君） よろしくお伺いいたします。ぜひ魅力ある茂原市の創生のチャンスと考えてお願いしたいものであります。

次に移ります。茂原市独自の暑さ対策のグッズ、先ほど来のことですがけれども、今年の夏も大変暑く、茂原市の多くの方に熱中症に伴う救急搬送があったというふうに聞いております。その状況をお伺いいたします。

○議長（森川雅之君） 市民部長 相澤 佐君。

○市民部長（相澤 佐君） 市内の熱中症による救急搬送数を月別に見ますと、5月が5名、6月が3名、7月が48名、8月に57名という状況でございました。特に梅雨明け後に救急搬送数が急増しているところでございます。

○議長（森川雅之君） 細谷菜穂子議員。

○13番（細谷菜穂子君） 今の数字を見てみますと、やはり急増していると、多くなっているということでございます。7月から8月の2か月で105名もの熱中症患者が搬送されたということでございます。その傾向については、どういうものであったのかお伺いします。

○議長（森川雅之君） 市民部長 相澤 佐君。

○市民部長（相澤 佐君） 搬送患者を年齢別で見ますと、7歳から18歳で16名、18歳から65歳で29名、65歳以上で60名ということで、高齢者が全体の57%を占めております。また、搬送された場所を屋内、屋外別に見ますと、屋内67名、屋外で38名ということで、屋内が全体の63%となっております。

○議長（森川雅之君） 細谷菜穂子議員。

○13番（細谷菜穂子君） ただいまのお話を聞きますと、熱中症患者というのは室内で、そしてまた65歳以上が多いという傾向であるということがわかりました。それについて、何か市の対策は行っていますか。

○議長（森川雅之君） 市民部長 相澤 佐君。

○市民部長（相澤 佐君） これにつきましては、高齢者宅の家庭訪問時や運動教室、介護予防教室におきましてチラシを配布しまして、また、こまめな水分補給やエアコン等の上手な使い方の指導を行うなど、関係各課で連携をしながら予防に取り組んでいるところでございます。

○議長（森川雅之君） 細谷菜穂子議員。

○13番（細谷菜穂子君） 命が一番大事なものでから、いろいろな形で熱中症対策を行っているということですが、茂原市では、モバリんという Mascot が大分定着して宣伝になっておりますが、そのモバリんのPRもかねて、茂原市独自の熱中症予防グッズ、例えば首に巻くアイスシートとか、いろいろなものが考えられると思いますけれども、そういったものをモバリんの図柄でつくって配布するとか、それに代わるものとか、そういったことの考えはありますか。

○議長（森川雅之君） 市民部長 相澤 佐君。

○市民部長（相澤 佐君） 熱中症の予防対策につきましては、先ほどお答えしましたけれども、こまめな水分補給や適正なエアコンの使用など、市民一人一人の対応によるところが大きいと思います。さらに市としては関係各課が連携を強化しまして、予防啓発に取り組んでいきたいと思っています。当面は対策グッズの配布は考えておりません。

○議長（森川雅之君） 細谷菜穂子議員。

○13番（細谷菜穂子君） 一人一人が対策をするというのがもちろんでしょうけれども、市挙げてやるというのも1つの方法ではないかなというふうに思います。暑い茂原市で熱中症の救急搬送ゼロとか、それを目指していただきたいなというふうに思います。暑い茂原市でも、健康茂原につながるような、そういうふうなスタンスで考えられたらいいのかなというふうに思いますが、そのあたりはどういうふうに考えていますか。

○議長（森川雅之君） 市民部長 相澤 佐君。

○市民部長（相澤 佐君） 暑い茂原市をメインに打ち出して、茂原市のPRということを考えるのも必要かと思っておりますけれども、いろいろな対策グッズに効果があるか、費用対効果等もございまして、また十分、調査研究をさせていただきたいと思っています。

○議長（森川雅之君） 細谷菜穂子議員。

○13番（細谷菜穂子君） 暑いのが悪いとかいいとかいう問題ではないと思いますけれども、いろいろな意味でアピールをするということが、名前が出るということは、それだけ有名になるということでございますので、茂原市の知名度を上げるということにもつながるのではないかなというふうに思います。

以上で終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（森川雅之君） 以上で細谷菜穂子議員の一般質問を終わります。

ここでしばらく休憩します。

午後 1 時 50 分 休憩

————— ☆ ————— ☆ —————

午後 2 時 05 分 開議

○議長（森川雅之君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、小久保ともこ議員の一般質問を許します。小久保ともこ議員。

（2 番 小久保ともこ君登壇）

○2 番（小久保ともこ君） 公明党の小久保ともこでございます。

我が国の少子化は、これまでの予測を上回る勢いで進んでおり、人口減少社会に突入しております。さきの経済財政諮問会議からの提言は、今後50年にわたり人口減少社会が続き、大変に困難な未来が待ち受けているとの厳しいものでありました。この国民的な課題である少子化の危機を突破するには、これまで以上に子育て支援の充実に取り組み、前向きに未来を変えていかなければならないと思います。子育て支援を最優先課題と捉え、未来に輝く子供たち、みんなで育てるまち茂原の実現を期待し、一般質問をさせていただきます。

初めに、子育て支援についてお尋ねいたします。

子供の発達に関する支援の充実について。近年、増加傾向にある発達障がいは、早期発見が大変に有効であることが検証されております。学童期になって発達障がいが見受けられるようになった場合、既に二次的と言われる不適応の状態になっていることが多いと言われております。幼児期の段階で発見し、適正な対処を行うことで多くが予防できることから、早期発見に最も適した年齢が5歳児であることが国の研究においても示されております。

そこで、早期発見、早期療育が最も重要であるという観点から、幼児期における発達に関する支援について3点お伺いいたします。

1点目は、3歳児健診時に発達障がいの疑いがある子供等に対して、市はどのような対応を

されているのかお聞かせいただきたいと思います。

2点目は、発達に関する子育て相談の件数及び子供の年齢について、過去5年間の推移を伺います。

3点目に、療育支援の現状についてお聞かせください。

次に、子供を安心して育てる環境づくりについて。初めに、産後ケアについて伺います。近年、晩婚、晩産により女性の出産年齢が年々高くなってきております。出産する女性の親の年齢も高齢化しており、十分な手助けを受けられない状況がございます。また、核家族化の進行や地域との交流も希薄化している中で、親の介護と育児が重なるなど不安を抱えたまま母親としての育児がスタートするケースが多くなると伺っております。良好な母子の愛着形成を促進する上で、出産直後の1か月間が最も大事な時期であり、さらには産後の親子関係が虐待や育児放棄の予防、早期発見などの役割も果たすと言われております。したがって、出産直後の母親への精神的、身体的なサポートは欠かせないものであると考えます。今定例会の諸般の報告におきましても、子育て支援として妊産婦に対する支援の重要性が述べられておりました。

そこで、出産直後の母と子をサポートする産後ケアを提供できる体制を構築すべきと考えますが、御見解をお伺いいたします。

次に、父親の育児参加について伺います。厚生労働省の資料によりますと、6歳未満の子供がいる家庭で男性が育児に関わる時間を国際的に比較した場合、日本人の育児時間は週平均30分程度との調査結果がございます。一方、アメリカでは1時間5分、イギリスでは1時間などとなっており、この調査結果から、日本における父親の育児参加が進んでいないことが浮き彫りとなっております。言い換えれば、その分、母親の負担が大きいということになります。父親が育児に参加することで父親自身の成長はもとより、母親の育児ストレスの軽減につながることから、結果として出生率の向上につながっていくことが期待できると考えます。

そこで、少子化対策において父親の育児参加がこれまで以上に必要であると考えますが、本市における父親の育児参加についてのお考えと、今後の取り組みについてお聞かせください。

次に、赤ちゃんステーションの設置について伺います。現在、各自治体の子育て支援策として推進している赤ちゃんステーションとは、地域全体で安心して子育てができる環境を整えることを目的に、公共施設や民間施設などでおむつ替えや授乳ができるスペースを無料で提供する取り組みであります。先日、子育て中の保護者から、外出先でおむつ替えや授乳ができる場所が見つからず困ることが多いという声を伺いました。安心して子供を育てる環境づくりが求められている中、まずは公共施設から赤ちゃんステーションを設置していくべきと考えます。

そこで、本庁舎に設置予定の授乳室についての進捗をお伺いいたします。

次に、高齢者支援についてお尋ねいたします。

認知症施策の推進について。高齢化の進展に伴い、高齢者の約4人に1人が認知症の人、またはその予備軍と言われる中、認知症の人が地域で暮らしやすい環境の整備や支援の充実が求められております。第6期介護保険事業計画における認知症施策の推進として、1、認知症ケアパスの作成・普及、2、早期診断・早期対応、3、地域での生活を支える介護サービスの構築、4、地域での日常生活・家族の支援強化の4項目がうたわれております。認知症施策について、1項目ずつ確認をさせていただきたいと思っております。

1項目、認知症ケアパスの作成・普及についてであります。認知症の容態に応じた適切なサービス提供の流れを確立する認知症ケアパスは、行政が中心となり、まずは地域資源のマップを作成し、ステージに合わせて連携関係を構築することが必要であります。また、地域ごとの医療・介護等の資源を列挙するだけにととまらず、一人一人の認知症ケアパスを認知症の人やその家族、医療・介護関係者等の中で共有しながら切れ目ないサービスの提供が重要であります。認知症ケアパスの作成・普及が認知症の人やその家族の安心感にもつながるのではないのでしょうか。

そこで、認知症ケアパスの確立に向けた取り組み状況についてお伺いいたします。

2項目、早期診断・早期対応についてであります。政府が国家戦略として認知症対策に総合的に取り組む新オレンジプランでは、認知症が疑われる早期の段階から診断やサービスの相談が受けられるよう訪問支援を行う認知症初期集中支援チームを2018年度までに全ての市町村に設置する目標を掲げております。このチームは、認知症専門医の指導のもと、複数の専門医が認知症と疑われる人、または認知症の人やその家族を訪問し観察、評価を行います。その上で初期支援を行い、かかりつけ医と連携しながら認知症に対する適切な治療、自立生活のサポートを行うものであります。本市では、医師や看護師などの医療資源が不足している中でどのように認知症初期集中支援チームを構築されるお考えかお伺いいたします。

3項目、地域での生活を支える介護サービスの構築についてであります。認知症高齢者が年々増加していることを踏まえ、今後の地域密着型サービスの見込みについてどのように考えているのかお伺いいたします。

4項目、地域での日常生活・家族の支援強化についてであります。認知症サポーターの養成について。新オレンジプランでは、認知症サポーターの養成目標を2017年度末までに800万人と掲げております。本市では、第6期介護保険事業計画において養成目標を毎年度300人とし

ております。認知症に関する正しい知識と理解を持って地域や職域で認知症の人やその家族を手助けするためにも、まずは本市の職員から率先して認知症サポーター養成講座を受講すべきと考えますが、御見解をお伺いいたします。

次に、市民後見人育成について。認知症の人やひとり暮らしの高齢者の増加に伴い、成年後見制度の必要性は一層高まり、弁護士等の専門職後見人だけでなく、地域に住む身近で信頼できる人による市民後見人の必要性が高まってくるのではないかと考えます。昨年3月の第1回定例会において、市民後見人の育成について質問した際、関係機関と協議検討するとの御答弁でありました。

そこで、市民後見人の育成について、どのような検討がなされたのかお伺いいたします。

次に、認知症カフェの普及について。認知症の人や家族、介護の専門スタッフや住民などが集う認知症カフェが千葉県内でも広がっております。認知症カフェは、孤立しがちな患者と家族に地域社会とのつながりを提供し、住民同士で支え合う意識の醸成、認知症の人や家族の居場所としてだけでなく情報交換や相談の場、また、地域の中で認知症の知識を普及する場としても期待されております。昨年に続き、本年の第1回定例会においても、認知症カフェの取り組みを提案いたしました。介護者や認知症の人が気軽に相談できる認知症カフェの進捗状況をお伺いいたします。

次に、介護人材の育成について伺います。高齢化が進む中で、介護サービスの充実、確保の重要性はいよいよ増しております。訪問介護、看護サービスを大幅に拡充するなど地域における包括的なケアシステムの構築が急務の課題であり、サービスの提供体制を充実させるためには、介護の人材の確保、定着が不可欠であります。厚生労働省の推計によりますと、全国の介護職員は2013年度では171万人、団塊の世代が後期高齢者となる2025年度には253万人が必要とされており、現状のままであれば、さらに80万人余りの増員が必要であるとされております。また、県内における不足人数は約2万2000人と試算されております。介護人材の不足は既に深刻な状況であり、いかに介護人材を確保するかが今後の重要な課題となっております。本市におきましては、昨年度まで千葉県の緊急雇用創出事業を活用し介護人材の育成、定着に取り組まれておりましたが、事業の実績と合わせ介護職に定着された人の人数をお伺いいたします。

さらに、緊急雇用創出事業が終了した本年度の取り組みと、本市における介護人材育成の課題についてお伺いいたします。

最後に、快適で使いやすい公共施設についてお尋ねいたします。

市民会館について。本市の市民会館は長年にわたり文化の創造や芸術文化にふれあう拠点と

して役割を担っておりますが、台風による浸水被害、耐震性、老朽化、あるいは多様化する市民ニーズの対応など、課題は山積しております。本年の第1回定例会においてもさまざま議論がされましたが、市民会館の建設計画についてお伺いいたします。

次に、学校のエアコン設置について。気象庁の発表によりますと、今夏は、7月9日以降、日本中が猛烈な暑さに包まれ、観測史上1位の暑さを更新した地点も多くございました。茂原市におきましても、7月11日より30度を超える真夏日が続き、21日には35度を超える猛暑日を記録するなど、猛烈な暑さにより、学校においても児童生徒の保健室利用が増えているようがあります。このような猛暑の影響で児童生徒の健康や集中力の低下、授業への影響が懸念されます。今後も、さらなる温暖化が予想される中で、本市における小中学校のエアコン設置についてのお考えをお伺いいたします。

以上で1回目の質問を終わりにいたします。

○議長（森川雅之君） ただいまの小久保ともこ議員の一般質問に対し当局の答弁を求めます。

市長 田中豊彦君。

（市長 田中豊彦君登壇）

○市長（田中豊彦君） 小久保ともこ議員の一般質問にお答えさせていただきます。

まず、子育て支援についての中で、産後ケアを提供できる体制についての見解はどの御質問でございますが、少子化、核家族化、地域のつながりの希薄化により、地域で妊産婦や家族を支える力が弱くなってきており、妊娠から子育てに至る父母の不安や負担が増大しているものと思われまます。妊産婦の孤立感の解消と不安や問題点への早期介入が安全・安心な出産に結びつくものと考えられるため、保健センター内に妊産婦が相談できる産前産後サポートセンターの開設準備を進めているところでございます。これにより、妊娠届出時から担当保健師や助産師が一人一人の状況に応じた支援計画を立案し、いつでも気軽に相談やケアが受けられるよう体制づくりが図られると考えております。また、退院直後から産科医と連携して家庭訪問を実施し、きめ細かなケアが受けられるよう努めてまいります。

次に、快適で暮らしやすい公共施設についての中で、市民会館の建設計画についての御質問でございますが、私といたしましては、何度も申し上げておりますが、市民会館は本市の芸術文化活動の拠点として大変重要な施設であり、できるだけ早期に整備してまいりたいという思いは以前から変わっておりません。また、今年7月に実施した公共施設に関する市民意識調査におきましても、市民会館に対するさまざまな御意見、御要望をお寄せいただいたところでございます。しかしながら、諸般のいろいろな状況を見ますと、特に3.11以来、建設資材、人件

費が高騰しており、また、オリンピック等の影響もございまして、この高騰している状況がずっと続いております。こういった諸般の事情をいろいろと考慮した中で、また、いろいろな案件を参考にしながら考えて今後いきたいと思っております。市民会館のほかにも市内の多くの公共施設が老朽化しているという現状を考慮しますと、地域の実情に合った計画的な管理をしなければならぬ、公共施設の適正化を目指す公共施設等総合管理計画との整合も図らなければいけない、こういったいろいろな要素を検討しながら進めてまいりたいと考えております。

私からは以上でございます。

○議長（森川雅之君） 市民部長 相澤 佐君。

（市民部長 相澤 佐君登壇）

○市民部長（相澤 佐君） 市民部所管に関わります御質問に御答弁申し上げます。

最初に、発達障害の疑いがある子供に対して市はどのような対応をされているのかという御質問でございますけれども、3歳児健康診査で発達障害の疑いが認められる場合には、担当保健師を中心として医師、心理相談員、歯科衛生士、栄養士等と連携をいたしまして、適切な支援方法を見きわめ、保健師等による家庭訪問や電話による支援を行っております。また、早期に療育が必要と判断した場合には、子育て相談やことばの相談、子供への接し方や遊び方を学ぶためのひまわりっこ教室などの利用を進めております。

次に、父親の育児参加についての考えと今後の取り組みについてという御質問でございますけれども、子供がいる夫婦は夫の休日の家事や育児時間が長くなるほど第2子以降の生まれる割合が高くなる傾向があるという厚生労働省からの報告もありますので、少子化対策としても父親の育児参加支援は重要なものと考えます。保健センターで実施しておりますママ・パパ教室の男性参加率は年々上昇し、参加者の7割ほどは御夫婦で参加されてはおりますが、妻の付き添いとして参加している人も多く見られます。今後は、男性のより積極的な参加が望まれます。

また、今年度新たに男性を主役としたイクメン講座の開講を予定しておりますので、多くの父親になられる方に御参加をいただきたいと考えております。以上でございます。

○議長（森川雅之君） 福祉部長 鈴木健一君。

（福祉部長 鈴木健一君登壇）

○福祉部長（鈴木健一君） 福祉部所管の御質問に答弁させていただきます。

初めに、発達に関する相談件数と子供の年齢はという御質問にお答えいたします。本市では、未就学児の子供の発達に関して、子育て相談とことばの相談の2つの相談事業を実施しており

ます。初めに子育て相談の過去5年間の推移ですが、平成22年度は32名、平成23年度28名、平成24年度24名、平成25年度37名、平成26年度43名です。次に、ことばの相談につきましては、平成22年度は32名、平成23年度は27名、平成24年度は25名、平成25年度は33名、平成26年度は38名となっております。相談される子供の年齢につきましては、年度ごとにばらつきがありますが、過去5年間の合計人数を年齢別に比較しますと、5歳が一番多く、以下4歳、3歳が同じ、2歳、6歳、1歳、ゼロ歳の順となっております。

次に、療育支援の現状はという御質問にお答えいたします。発達に心配のある子供とその保護者への支援につきましては、市で実施しているひまわりっこ教室やことばの相談など療育を目的とした各事業につなげ、それぞれの状況に応じた指導、助言を行っております。また、継続的あるいは専門的な支援が必要な場合には、児童発達支援センターなどの支援機関と連携しサポートに努めております。

次に、認知症ケアパスの確立に向けた取り組み状況はという御質問にお答えいたします。本市では、認知症の人とその家族が住み慣れた地域の中で生活を継続していくために、認知症の人の状態に応じた適切な支援の流れを示す認知症ケアパスの作成に向けて、認知症ケア専門士、認知症コーディネーターなどの意見を聞いて具体的な検討をしているところでございます。

次に、認知症初期集中支援チームの構築の考えはという御質問にお答えいたします。認知症初期集中支援チームは、国の実施要項によりチーム員研修を受けた保健師などの医療関係職員、社会福祉士などの介護系職員、認知症サポート医の3名以上で構成されます。現在、本市ではサポート医につきましては、その増員に向けて医師会と協議を進めております。また、チームの構成員として地域包括支援センター職員が今年度の認知症初期集中支援チーム員研修を受講する予定であり、構築に向けて努めているところでございます。

次に、今後の地域密着型サービスの見込みについての考えはという御質問にお答えいたします。国の調査では、認知症患者は2025年には約700万人になるとしており、高齢者の約5人に1人が認知症を発症すると見込んでいます。本市では、認知症高齢者の大幅な増加を見込み、認知症の高齢者が住み慣れた地域で自立した日常生活を営むことができるよう、地域密着型を中心とした施設整備を推進しているところです。その中でも小規模多機能型居宅介護施設は、通いを中心に訪問、宿泊を組み合わせ、サービスの連続性・総合性を備えた施設で、住み慣れた地域で生活を継続するための手段として大変有効であると考えており、第6期介護保険事業計画では、新規に1施設を整備することを目標としております。

次に、本市職員の認知症サポーター養成講座を受講すべきと考えますが、見解はという御質

間にお答えいたします。高齢化が進み認知症の方が増えていくことが予想される中で、一般市民のみならず、市職員についても認知症に対する理解を深めることは大切であると認識しております。今後、職員に対して認知症サポーター養成講座を実施していくよう検討してまいります。

次に、市民後見人育成についてどのような検討がなされたのかという御質問にお答えいたします。市では、関係機関であります社会福祉協議会や裁判所に相談をしているところでございます。市民後見人の課題といたしましては、育成から活動のフォローアップや資質を担保するなどの必要があり、先進自治体を参考に検討してまいります。

次に、認知症カフェの取り組みの進捗状況はという御質問にお答えいたします。認知症カフェは、認知症の人とその家族、地域住民、専門職等の誰もが参加でき、交流や情報交換を行う場であり、不安を抱えている認知症の方やその家族の支援強化に対して効果が期待できるものと考えております。進捗状況につきましては、地域包括支援センターで地区ごとに認知症カフェについて検討しており、本納地区においては認知症家族の会や支援者などが中心となり、今年度開設予定でございます。

次に、緊急雇用創出事業を活用し介護人材の育成、定着に取り組まれてきたが、定着された方は何名いるのかという御質問にお答えいたします。緊急雇用創出事業の平成22年度から平成26年度までの事業実績についてですが、雇用者数が44名、資格取得者数が37名、継続雇用者が25名となっており、介護人材の確保に寄与いたしました。

次に、緊急雇用創出事業が終了した本年度の取り組みはという御質問にお答えいたします。本市では、介護現場に新たに採用される方を確保するため、今年度からハローワーク、地域若者サポートステーション、社会福祉協議会と連携し、介護職場の就職説明、面談会や介護施設見学会の実施、相談窓口の設置など、介護人材確保のための新たな取り組みを進めているところです。

次に、本市における介護人材育成の課題はという御質問にお答えいたします。高齢化が急速に進行し介護を必要とする高齢者の増加が見込まれている中で、その担い手となる介護人材の確保は極めて重要な問題であります。しかしながら、介護現場は慢性的な人材不足が続いており、介護職員を募集してもなかなか応募者がいない状況にあり、採用の困難さが大きな課題であると認識しております。市では、今後も関係団体と連携しながら安定的な介護人材の確保と市内介護事業所への定着を図り、質の高いサービスの安定的な提供につなげてまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長（森川雅之君） 総務部長 豊田正斗君。

（総務部長 豊田正斗君登壇）

○総務部長（豊田正斗君） 総務部所管に関わります子育て支援のうち、授乳室の設置につきまして答弁申し上げます。授乳室につきましては、自治体の設置事例や現在子育て中の女性職員からの意見を参考としながら設置場所、設置備品、レイアウト等について検討を重ねてまいりました。設置場所につきましては、本庁舎1階、年金事務所と102会議室の間にあります部屋といたしまして、今後は早期に工事に取りかかり、今年度中に完成させたいと考えております。以上でございます。

○議長（森川雅之君） 教育長 内田達也君。

（教育長 内田達也君登壇）

○教育長（内田達也君） 教育関係の御質問についてお答えします。

本市の学校施設のエアコンの設置につきましては、先ほど田畑議員の御質問にもありましたけれども、小中学校においてコンピュータ教室、保健室、図書室、職員室に順次設置してまいりました。また、平成26年4月1日現在の千葉県内の公立小中学校普通教室のエアコン設置率は、小中学校平均で24.3%となっております。普通教室のエアコンの設置につきましては、夏季休業があることや児童生徒の体温調節機能が低下する等の意見もあることから、学校医等の専門家や学校現場からの意見を参考に調査研究してまいります。

教育については以上でございます。

○議長（森川雅之君） 再質問ありますか。小久保ともこ議員。

○2番（小久保ともこ君） 御答弁ありがとうございました。ここからは一問一答方式で質問をさせていただきます。

初めに、子供の発達に関する支援の充実についてですが、1点目、発達障がい疑いがある子供等に対して保健師等による家庭訪問や電話による支援を行っているとの御答弁でございました。それでは、3歳児健診を受診されていない子供に対してはどのような対応をされているのかお伺いいたします。

○議長（森川雅之君） 市民部長 相澤 佐君。

○市民部長（相澤 佐君） 3歳児健診は発達障害の早期発見のための重要な健診ですので、全ての対象者が受診できるように電話や再通知などを行い受診につなげております。それでも受診されないお子様につきましては、保健師が家庭訪問を行い、お子さんの状況等を確認しております。その結果、発達障害の疑いが見られたり、保護者からの相談がある場合には、受診

されたお子さんと同様に相談事業やひまわりっこ教室などにつなげております。

○議長（森川雅之君） さらに質問ありますか。小久保ともこ議員。

○2番（小久保ともこ君） 現在、発達障がいや早期発見・療育につなげる取り組みは訪問事業で行っているとの御答弁でございます。発達障がいの疑いがある子供が増加傾向の中で、円滑にこの訪問事業が推進できる体制を構築することが望ましいと考えます。保護者に寄り添い、信頼関係を築きながら発達に関する相談に対応している保健師の担う役割は大変に大きいと思います。現在、保健センターに在籍している保健師は13名で、育児休業中の保健師が4名いる中、日々奮闘されていることと思います。発達障がいの早期発見、早期療育につなげるためにも、保健師の増員や専門職の人材を確保すべきと考えますが、御見解をお伺いいたします。

○議長（森川雅之君） 市民部長 相澤 佐君。

○市民部長（相澤 佐君） お子さんに発達障害が疑われる場合は、保護者が不安や戸惑いを感じる人が多いと思われまます。保健師は家庭訪問を繰り返し、保護者に寄り添い、丁寧に対応することがより一層求められております。これらの業務に対応する職員の充実につきましては、今後検討してまいりたいと思います。

○議長（森川雅之君） 小久保ともこ議員。

○2番（小久保ともこ君） ぜひお願いしたいと思います。

発達障がいや早期発見、また療育へとつなげるための取り組みとして5歳児健診がございませす。昨年の第2回定例会においても提案いたしました。その後、どのような検討がなされたのかお伺いいたします。

○議長（森川雅之君） 市民部長 相澤 佐君。

○市民部長（相澤 佐君） 平成27年4月現在で、昨年と同様、県内6市町村で5歳児健診を実施しておりますが、実施方法につきましては、それぞれの地域の実情に合わせ、さまざまでございます。また、障害が発見された子供や保護者への支援につきましては、療育の体制が整備されておりませんと保護者の不安やストレスを助長させ、その後の子育てに支障を来す可能性もございませす。このような観点から、健診の導入につきましては、効果的な健診の方法と療育体制の整備が必要ですので、現在のところは難しいと考えております。

○議長（森川雅之君） 小久保ともこ議員。

○2番（小久保ともこ君） 次に、2点目でございます。発達に関する相談は5歳児が多く、また相談件数も年々増加しておりますが、相談後のフォローはどのように行っているのかお伺いします。

○議長（森川雅之君） 福祉部長 鈴木健一君。

○福祉部長（鈴木健一君） 子育て相談やことばの相談後のフォローですが、そのケースによって健康管理課と連携し、次回の幼児健診でフォローしてもらう場合と、担当保健師が電話や訪問でフォローする場合、継続的に子育て相談やことばの相談でフォローする場合があります。また、遊びを通して親子のふれあいを深め、子供の心や言葉の発達を促す親子遊びの教室、ひまわりっこ教室を紹介する場合、専門的な療育が必要と判断された場合には、児童発達支援センターを紹介する場合があります。そのほかとして、今年度から開始した療育支援訪問事業でフォローする場合もあると思われま。

○議長（森川雅之君） 小久保ともこ議員。

○2番（小久保ともこ君） 御答弁にありました、ひまわりっこ教室、ことばの相談、療育支援訪問事業、それぞれの現状と課題について伺います。

○議長（森川雅之君） 福祉部長 鈴木健一君。

○福祉部長（鈴木健一君） 子育て相談は年18回開催し、タイムリーに相談に対応できております。ことばの相談は年24回から30回に増やし、就学前の発音の練習が定期的にでき、かつ新規の相談にも対応できるようにしております。課題といたしましては、早期療育が必要と判断されていても、保護者が抵抗感が強いとつなげるまでに時間がかかるということがあります。ひまわりっこ教室では、クラスを概ね3歳以上児と未満児に分けて、保育士が中心となり、月2回開催しております。スタッフのスキルアップを図るための研修も実施しておりますが、効果的な発達支援をするためには週1回程度の開催が必要であり、場所や人材の確保、スタッフのスキルアップなどの課題があります。療育支援事業は今年度より開始し、3ケース実施しておりますが、うち2ケースが発達に心配のある小学生を持つ保護者を対象としています。より効果的な療育支援ができるように訪問医のスキルアップが課題であります。以上でございます。

○議長（森川雅之君） 小久保ともこ議員。

○2番（小久保ともこ君） それぞれの課題について、今後どのように取り組んでいくのかお伺いいたします。

○議長（森川雅之君） 福祉部長 鈴木健一君。

○福祉部長（鈴木健一君） 子育て相談やことばの相談で早期に療育が必要とされた場合には、保護者の気持ちに寄り添いながら、健康管理課や児童発達支援センターなどと連携し、専門機関へつなげられるように努めてまいります。ひまわりっこ教室では、スタッフのスキルアップを図るために継続した研修の実施と近隣の児童発達支援センター等と連携し、発達の心配な子

供への支援が効果的にできるように指導してもらうことを検討しております。療育支援訪問事業では、療育に詳しい専門家にスーパーバイザーとなってもらいながら、訪問員のスキルアップを図りたいと考えております。

○議長（森川雅之君） 小久保ともこ議員。

○2番（小久保ともこ君） 次に、3点目でございます。先日、大多喜町にありますこども発達支援センターそらいろと睦沢町にありますつくも幼児教室を視察してまいりました。未就学児から学齢児の個別や集団でのソーシャルスキルトレーニングや専門性を生かした支援に取り組まれておりました。このような療育に特化した環境を整えることは、子供を安心して育てるまちづくりにおいても大変に重要であると考えます。茂原市では、市内で療育支援を受けたくても療育支援の受け皿がございません。本市におきましても、児童発達支援センターの創設に取り組むべきと考えますが、御見解をお伺いします。

○議長（森川雅之君） 福祉部長 鈴木健一君。

○福祉部長（鈴木健一君） 児童発達支援センターにつきましては、事業形態、圏域、施設や専門職の確保などの課題がありますので、今後、可能性について調査研究してまいりたいと考えております。

○議長（森川雅之君） 小久保ともこ議員。

○2番（小久保ともこ君） 発達障がいに関する支援においては、さまざま課題がございますが、5歳児での発達に関する相談が多いということからも、5歳児健診の導入と、また、療育を早期に受けられる体制の整備を早急に取り組んでいただくことを強く要望いたします。

次に、子供を安心して育てる環境づくりについてで、産後ケアについてでございます。産前産後サポートセンターは、いつでも利用できる体制を整えていく予定であるのかお伺いします。

○議長（森川雅之君） 市民部長 相澤 佐君。

○市民部長（相澤 佐君） 産前産後の保護者の方がいつでも気軽に立ち寄り、保健師や助産師に相談したり必要なケアが受けられるよう、段階的に体制強化を図ってまいりたいと考えております。

○議長（森川雅之君） 小久保ともこ議員。

○2番（小久保ともこ君） 段階的に体制強化を図るとの御答弁であります。体制の強化には産後ケアを担う人材の専門的な研修が必要であると考えますが、産後ケアを担う人材の育成を目的とした研修についてのお考えをお伺いいたします。

○議長（森川雅之君） 市民部長 相澤 佐君。

○市民部長（相澤 佐君） 専門研修につきましては、既に2名の保健師が受講しております、今後も5名が受講する予定でございます。

○議長（森川雅之君） 小久保ともこ議員。

○2番（小久保ともこ君） 出産直後の母子の心身をサポートする産後ケアは、母親にとってとても心強い存在になると考えます。12月開設予定の産前産後サポートセンターに期待をいたしまして、次の質問に移ります。

父親の育児参加についてでございます。イクメン講座はいつごろからの開催を予定し取り組まれているのかお伺いいたします。

○議長（森川雅之君） 市民部長 相澤 佐君。

○市民部長（相澤 佐君） 今年度につきましては、11月から来年の2月の土曜日に、全4回開講する予定でございます。イクメンの心構え、沐浴体験、調理実習、ベビーマッサージ等の講座を実施する予定でございます。また、妻の受講も可能で、調理実習では夫のつくる料理を食べたり、マタニティーヨガ体験も予定しております。

○議長（森川雅之君） 小久保ともこ議員。

○2番（小久保ともこ君） これまで開催しておりましたママ・パパ教室は今後も継続されていく予定かお伺いいたします。

○議長（森川雅之君） 市民部長 相澤 佐君。

○市民部長（相澤 佐君） 今まで開催していましたママ・パパ教室も継続してまいります。どちらも受講していただくことによりまして、より安心して分娩に臨み、楽しく育児をしていただけるものと考えております。

○議長（森川雅之君） 小久保ともこ議員。

○2番（小久保ともこ君） 昨今、父親が積極的に育児に関わるためのツールとして、父子手帳やイクメンハンドブックなどを作成されている自治体があります。父親は親という自覚はあっても、子育てについて何をどうしていいのかわからないということがたくさんあるという声を耳にいたします。父親が我が子の成長や子育てに関心を持ち、母親と協力をしながら育児や家事を行う中で子育ての喜びを感じる、そんなきっかけとなる父子手帳やイクメンハンドブックは子育て参加へのきっかけづくりになると考えます。

そこで、本市におきましても父子手帳やハンドブックの発行に取り組み、父親が積極的に育児に取り組めるよう啓発を行ってはどうかと考えますが、御見解を伺います。

○議長（森川雅之君） 市民部長 相澤 佐君。

○市民部長（相澤 佐君） 現在、妊婦には母子健康手帳や副読本などを交付しておりますが、父子手帳等は交付しておりませんでした。今年度からイクメン講座の受講者に対しまして、父子手帳とハンドブックの配布を予定しております。父子手帳では、妻の妊娠週数により自分の子供の成長が確認でき、ハンドブックは育児を楽しむイクメンの第一歩としてのテキストとして活用いただきたいと考えております。

○議長（森川雅之君） 小久保ともこ議員。

○2番（小久保ともこ君） 次に、赤ちゃんステーションの設置についてでございます。子ども・子育て支援事業計画の基本理念であります「未来に輝く子どもたち みんなで育てるまちもばら」とあるように、地域全体で子育てを応援する機運を高めるきっかけとして、今後、民間施設にお願いし、赤ちゃんステーションを積極的に推進していただきたいと考えますが、御見解を伺います。

○議長（森川雅之君） 福祉部長 鈴木健一君。

○福祉部長（鈴木健一君） 茂原市子ども・子育て支援事業計画の基本理念に沿って、地域が一体となったみんなで育てるまちを目指すためにも、民間施設に御協力いただくことは大変意義あることだと認識しております。既に設置済みの民間施設もあると伺っておりますので、まずは市内の設置状況を整理した上で、赤ちゃんステーションの情報発信をしてみたいと考えております。

○議長（森川雅之君） 小久保ともこ議員。

○2番（小久保ともこ君） 乳幼児のおむつ替えや授乳は時間や場所を問いません。屋外で開催される各種イベント会場で近くにおむつ替えや授乳ができるスペースが設置された施設がないために、外出を断念される場合もあると伺っております。そのようなときに、イベント会場に折り畳み式のおむつ替えや授乳ができるスペースを確保したテントが設置されれば、赤ちゃんを連れたお母さんなどが心配なく参加できることとなります。既に移動式赤ちゃんステーションを導入している大阪狭山市では、2011年度から無料で貸し出しを行っており、小学校の運動会や商工イベントなどで利用されているようであります。本市におきましても、茂原七夕まつりなど屋外で開催されるイベントが多くございます。乳幼児を連れた保護者が安心して参加できるよう、移動式赤ちゃんステーションを取り入れはどうかと考えますが、御見解を伺います。

○議長（森川雅之君） 福祉部長 鈴木健一君。

○福祉部長（鈴木健一君） 移動式赤ちゃんステーションの貸し出しは、乳幼児の保護者が気

軽にイベントなどに参加しやすくなるよう、子育てにやさしいまちづくりにつながる事業だと考えております。議員御提案の大阪狭山市をはじめ、同様の事業を実施している自治体もありますので、参考にさせていただき検討してまいりたいと考えております。

○議長（森川雅之君） 小久保ともこ議員。

○2番（小久保ともこ君） 次に、認知症施策の推進について伺います。2項目、早期診断、早期対応で、関係機関との協議により認知症初期集中支援チーム構築に向けた進展はございましたでしょうか。

○議長（森川雅之君） 福祉部長 鈴木健一君。

○福祉部長（鈴木健一君） 医師会を通して認知症サポート医研修の受講要請を医師に対して働きかけているところでございます。また、医療系職員、福祉系職員につきましては、地域包括支援センターの職員が今年度チーム員研修を受講する予定でございます。

○議長（森川雅之君） 小久保ともこ議員。

○2番（小久保ともこ君） 認知症初期集中支援チームの構築において、さまざまな課題があると存じます。それらの問題を解決するための具体的な取り組みについてお聞かせください。

○議長（森川雅之君） 福祉部長 鈴木健一君。

○福祉部長（鈴木健一君） チームの構築においては、御指摘のとおり、医療資源の不足が課題となっており、現在、医師会でサポート医の増員に向けての働きかけを行っております。また、医療系職員、介護系職員につきましては、国が主催するチーム員研修の開催回数が少ないことに対して、県を通じて研修を増やすように働きかけるとともに、地域包括支援センター職員にチーム員研修を積極的に受講するように勧めてまいります。

○議長（森川雅之君） 小久保ともこ議員。

○2番（小久保ともこ君） 次に、3項目、現在、市内に小規模多機能型居宅介護施設はどのくらいあるのでしょうか。

○議長（森川雅之君） 福祉部長 鈴木健一君。

○福祉部長（鈴木健一君） 市内の小規模多機能型居宅介護施設の整備状況についてですが、日常生活圏域の茂原地区に1施設、登録定員25名と中央地区に1施設、登録定員29名の計2施設が整備されております。

○議長（森川雅之君） 小久保ともこ議員。

○2番（小久保ともこ君） 小規模多機能型居宅介護施設をこの第6期計画期間内に新規で1施設整備するとの御答弁でございますが、設置場所を含めた具体的なスケジュールはどのような

になっているのか伺います。

○議長（森川雅之君） 福祉部長 鈴木健一君。

○福祉部長（鈴木健一君） 小規模多機能型居宅介護施設の整備についてですが、平成28年3月から整備事業者選定のための公募を開始し、28年度中の完成を予定しております。

なお、設置場所につきましては、日常生活圏域ごとのバランスを配慮した整備を進めてまいりたいと考えております。

○議長（森川雅之君） 小久保ともこ議員。

○2番（小久保ともこ君） 地域包括ケアの推進の中で、この生活圏域の多様な生活ニーズに応え、また、在宅生活を支える拠点として小規模多機能型居宅介護は重要性を増しております。この施設の整備にあたっては、住民意見を反映させるとともに、施設と住民との協働による地域コミュニティの推進を図るべきと考えますが、御見解を伺います。

○議長（森川雅之君） 福祉部長 鈴木健一君。

○福祉部長（鈴木健一君） 第6期介護保険事業計画作成のために実施した日常生活圏域ニーズ調査の中では、高齢者の6割以上の方が可能な限り住み慣れた地域で生活を続けたいと回答されたことから、その結果を施設整備に反映いたしました。また、施設と住民との協働による地域コミュニティづくりについてですが、地域密着型の施設ごとに利用者家族、自治会、民生委員、市職員等を委員とする運営推進会議を設置していることから、その中で運営に関する要望、助言等を聞くことや、地域行事の積極的な参加により地域との交流、連携を図り、地域住民が主体となったコミュニティの構築を進めてまいりたいと考えております。

○議長（森川雅之君） 小久保ともこ議員。

○2番（小久保ともこ君） 次に、4項目、市民後見人の確保と活動の推進を目的とした市民後見推進事業がございます。この事業で市町村は市民後見人の養成研修を実施機関に委託し、その機関は研修修了者の名簿を委託元に送付、市町村はその登録された名簿をもとに裁判所に候補者の推薦を行うこととなります。この事業を活用し市民後見人の育成に取り組んでいただきたいと考えますが、御見解を伺います。

○議長（森川雅之君） 福祉部長 鈴木健一君。

○福祉部長（鈴木健一君） 県内先進自治体においては、市民後見人養成講座修了者は法人後見の協力員として活動するにとどまっているのが現状であります。市民が成年後見活動を行うためには、法律的、社会的な責任が生じ、サポート体制が不十分なままだと不適切な後見業務が行われ、市民後見への社会的な信頼を失墜させてしまいます。市では、このような課題への

対応を踏まえ、先進自治体の取り組みを参考に市民後見人の育成を検討してまいりたいと考えております。

○議長（森川雅之君） 小久保ともこ議員。

○2番（小久保ともこ君） 次に、介護人材の育成についてでございます。介護人材の確保、定着には、現場の意見を取り入れて介護に魅力と誇りを感じてもらい取り組みが重要であり、地域住民の意識を高めていく必要があると考えます。

そこで、介護職のイメージアップにつながる取り組みについて伺います。

○議長（森川雅之君） 福祉部長 鈴木健一君。

○福祉部長（鈴木健一君） 市では、本年度、社会福祉協議会と連携した介護施設見学会の開催や市役所9階にある地域若者サポートステーションに新たに相談窓口を設置することを企画し、人材確保、イメージアップに向けた対策を講じているところでございます。

○議長（森川雅之君） 小久保ともこ議員。

○2番（小久保ともこ君） 介護職のイメージアップの取り組みとして、子供のころから介護の仕事の深さや尊さを学んだり、現場での体験学習など学校教育の一環として介護という仕事に興味を深めるような取り組みを推進していただきたいと思いますが、御見解を伺います。

○議長（森川雅之君） 福祉部長 鈴木健一君。

○福祉部長（鈴木健一君） 現在、市では小学生を対象にした認知症サポーター養成講座や、市内小中学校においては、高齢者の集い、介護職場体験学習など、高齢者との交流を通じ介護に興味を持ってもらうための活動を実施しております。市といたしましては、教育の場において交流活動や体験活動を実施し、児童生徒及び保護者の福祉・介護への関心を高めることで、子供たちが社会のスタートの地点に立ったときに介護という仕事を選択肢の1つに入れてもらえるよう努めてまいります。

○議長（森川雅之君） 小久保ともこ議員。

○2番（小久保ともこ君） 介護職の離職を押し上げてきた要因の1つが腰痛であると言われており、労働環境改善に向けた取り組みとして、持ち上げないノーリフト介護が幾つかの自治体で注目されております。高知県では、この労働環境の改善を図るために福祉器具導入に対する助成とあわせて腰痛予防研修を実施しております。本市におきましても、行政が主体となってノーリフト介護の研修を実施してはどうかと考えますが、御見解を伺います。

○議長（森川雅之君） 福祉部長 鈴木健一君。

○福祉部長（鈴木健一君） 介護職は腰痛になるリスクが高い職業であることから、国では、

事業者に対し、介護される方を抱える業務に従事する者に、6か月に一度の腰痛検査を義務づけるなど、腰痛発生の予防と介護される方の安全のための対策を講じております。

御質問のノーリフト介護の研修につきましては、現段階の実施は予定しておりませんが、今後、調査研究してまいりたいと考えております。

○議長（森川雅之君） 小久保ともこ議員。

○2番（小久保ともこ君） 次に、市民会館についてでございます。御答弁にありました市民意識調査において、市民会館に対してどのような御意見が多かったのか、調査結果についてお伺いいたします。

○議長（森川雅之君） 企画財政部長 岡澤与志隆君。

○企画財政部長（岡澤与志隆君） 本年7月に実施いたしました公共施設に関する市民意識調査におきましては、市民会館に対する主な意見といたしまして、建て替えを強く望む、文化施設の水準を上げてほしいとの御意見がある一方で、近隣自治体の施設を利用できるため不要であるなどの意見もございました。

○議長（森川雅之君） 小久保ともこ議員。

○2番（小久保ともこ君） 私は、この市民会館の建設について、本市の魅力アップに寄与するような機能などの幅広い検討を望むものであります。

そこで、まず、市民会館建設に向けた庁内の検討委員会及び学識経験者など第三者による検討委員会を早急に立ち上げるべきと考えますが、御見解を伺います。

○議長（森川雅之君） 企画財政部長 岡澤与志隆君。

○企画財政部長（岡澤与志隆君） 市民会館の建設に向けての第三者等も含めた検討委員会につきましては、現時点では考えておりません。しかしながら、市民会館等の施設につきましては多額の費用が必要となるため、民間等の動向に注視し、その整備手法等についてもたゆまぬ検討を続けてまいります。

○議長（森川雅之君） 小久保ともこ議員。

○2番（小久保ともこ君） 市民会館の建設につきましては、昭和43年に開館し、築47年を経過した市民会館は、音響、照明設備ともに老朽化が進み、かねてから練習室がないことや駐車場が不足しているなど、今後の芸術文化活動を担っていく施設としては使い勝手の悪さが指摘されております。市民会館の建設には公共施設のあり方や財源の確保など課題はあるものの、今後の文化芸術振興の重要性を考慮し、早期に建設に着手できるような検討いただくことを要望いたします。

最後に、学校のエアコン設置についてでございます。先日、小学生の保護者から、教室が蒸し暑く子供が連日体調不良を訴えて困っているとの声を伺いました。日本気象協会では、気温が28度であっても湿度が55%になれば熱中症リスクが警戒エリアになると警告しております。エアコンの設置は、児童生徒にとって必要な環境整備であると考えます。

そこで、普通教室にエアコンを設置した場合、小学校、中学校それぞれに必要な事業費の概算について伺います。

○議長（森川雅之君） 教育部長 野島 宏君。

○教育部長（野島 宏君） 事業費につきましては、概算ではありますが、小中学校の普通教室と特別支援学級の全てにエアコンを設置した場合、受電設備の改修等も含めまして、小学校は合計177教室で4億9000万円、中学校は81教室で2億3000万円程度を見込んでおりますが、昨今の人件費等の高騰によりまして事業費が増加することも見込まれます。以上です。

○議長（森川雅之君） 小久保ともこ議員。

○2番（小久保ともこ君） 国の補助事業に学校施設環境改善交付金事業がございます。この事業を活用した場合、市の実質の負担は小学校、中学校それぞれどのくらいになるのかお伺いいたします。

○議長（森川雅之君） 教育部長 野島 宏君。

○教育部長（野島 宏君） 財源ですが、小学校では事業費4億9000万円のうち交付金が約7000万円、起債が3億2000万円、一般財源が1億円を見込んでおります。中学校では事業費2億3000万円のうち交付金が3000万円、起債が1億5000万円、一般財源が5000万円を見込んでおります。いずれも概算の事業費でありまして、交付金についても国の予算で変動する場合がございます。

○議長（森川雅之君） 小久保ともこ議員。

○2番（小久保ともこ君） 子供の体は体温調節機能が未熟ということから、まずは暑さに対する抵抗力が弱いとされる小学校から段階的にエアコンの設置に取り組まれてはいかがでしょうか。

○議長（森川雅之君） 教育部長 野島 宏君。

○教育部長（野島 宏君） 子供の体は暑さに対する抵抗力が未熟である一方、エアコンの設置によりまして児童生徒の体温調節機能が低下するという意見もございます。先ほども話しましたが、導入に関しましては学校医等の専門家、学校現場の意見を参考に研究を進めてまいりたいと考えております。以上です。

○議長（森川雅之君） 小久保ともこ議員。

○2番（小久保ともこ君） 今年度で全ての学校の耐震化が完了いたします。茂原市の未来を担う子供たちの健康を守るために、段階的なエアコン設置に向けた本市の英断に期待をいたしまして、私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（森川雅之君） 以上で小久保ともこ議員の一般質問を終わります。

ここでしばらく休憩します。

午後3時08分 休憩

☆ ☆

午後3時30分 開議

○議長（森川雅之君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、佐藤栄作議員の一般質問を許します。佐藤栄作議員。

（7番 佐藤栄作君登壇）

○7番（佐藤栄作君） 公明党市議団の佐藤栄作でございます。

それでは、通告に従いまして、一般質問をさせていただきます。

第1点目は、マイナンバー制度の運用について。

その1は、導入効果についてお尋ねします。赤ちゃんからお年寄りまで住民登録をしている、国民一人一人に割り振られる12桁の番号であるマイナンバー制度が今年10月にスタートいたします。現在、官民で周知活動やシステムの整備など準備作業が進められております。10月以降、市より各世帯にまとめて12桁の個人番号が記載された通知カードが郵送されることになっております。来年1月からは具体的な運用が開始され、税金の納入や社会保障の分野で使用され、確定申告や児童手当の申請などの手続きに使われることになっております。

そこで、まず市民に直接影響のあるマイナンバー制度の導入効果について、当局の答弁をお聞きします。

その2は、個人情報の保護及びセキュリティ対策について。個人情報の保護については、さきの日本年金機構のサイバー攻撃による個人情報の流出事件があり、セキュリティ対策に関心が寄せられております。その後、総務省が調査したところ、住民情報や自治体事務を扱うネットワークをインターネットから完全に分離している自治体は1割弱にすぎないことが判明しました。

そこで、市民が安心のできる個人情報保護のため、システム整備面からのセキュリティ対策はどのようにされているのかお聞きします。

その3は、制度の周知徹底について。読売新聞社は、マイナンバー制度について、7月上旬から8月上旬にかけて、全国世論調査を実施しました。それによりますと、制度を知らないと答えた人は6%で、名称は知っているが内容は知らないの46%を合わせると52%の人が知らないという調査結果が出ました。

そこで、マイナンバー制度の調査結果について、どのように受けとめているのかお聞きします。

第2点目は、健康、医療施策の拡充について。

その1は、健康診査等についてお尋ねします。健康診断は、病気のリスクを早期に見つけて病気を未然に防ぎ進行を抑制するために実施されるものであります。日本人の死因の半分以上をがんや心臓病、脳卒中などの生活習慣病が占めております。健診は学校や職場で実施されていましたが、生活習慣病を減らそうと2008年から40から74歳の全ての公的保険加入者を対象に、腹囲や体重、血圧、血糖値、脂質を測定し、生活習慣病のリスクの高い人を早期に発見する特定健診、メタボ健診が始まりました。本市が実施している健康診査等の受診状況と課題及び対策についてお聞きします。

その2は、予防医療の充実についてお尋ねします。国の統計によれば、日本の総人口に占める高齢者、65歳以上の割合が24.6%と国民の4人に1人が高齢者となっております。一般的に高齢者の割合が7から14%の社会を高齢化社会、また14から21%の社会を高齢社会、そして21%を超えると超高齢社会と呼ばれております。世界で最初に超高齢社会を迎える国が日本と言えます。加齢とともに健康に問題を抱える人が増え、病気やけがなどで何らかの症状を抱える人の割合は、65歳以上の男性は44.4%、女性は49.3%に上ります。加齢に伴う医療ニーズの増大は国民医療費に影響を及ぼしております。このことから、本市の医療費は他市と比べてどのような状況か、また、予防医療の実態と対策をどのように考えているのかお聞きします。

第3点目は、オリンピック・パラリンピックを活用した施策の展開について。

その1は、選手団の合宿誘致の推進について、茂原市はどのような体制づくりを考えているのかお聞きします。

その2は、外国人観光客を呼び込むための施策についてお尋ねします。政府は、2020年東京オリンピック・パラリンピックが開催されるまでに全国の観光地や避難所など約3万カ所に公衆無線LAN、Wi-Fiを設置する方針であります。外国語で情報提供することで外国人観光客を呼び込み、地域活性化につなげる狙いがあります。外国人が自身の感想をインターネットで発信し、それを見た人が同じ観光地を訪れるような個人旅行が広まっております。

そこで、外国人観光客を呼び込む手段として、市役所や公共施設に公衆無線LANを設置したらどうかお聞きします。

第4点目は、生活環境の整備について。

その1は、生活排水施設の整備について。初めに、カスミ東郷店付近の排水問題についてお尋ねします。カスミ東郷店付近は、児童の通学道路になっております。しかし、大雨時は通路が冠水するため団地内を迂回するか、水たまりを通過するしか方策はありません。また、排水事情は30年以上前から生活排水問題で東郷地域と谷本地域の棚上げ事項ともなっており、生活圈を脅かしております。

そこで、県及び市当局が携わっているカスミ東郷店付近の排水問題の現状についてお聞きします。

その2は、杉屋団地と砂台団地の地域排水問題の進捗状況についてお尋ねします。杉屋団地と砂台団地の地域排水問題については、公明党前任の田辺議員の要望で、調節池から田中歯科までの深いU字溝を引き込みましたが、平成22年に突然凍結され、一昨年(平成25年)12月、一般質問で取り上げた際、既に予算化されているとの答弁でした。杉屋団地と砂台団地へ深いU字溝を引き込む対策は、県道茂原環状線の田中歯科より東郷橋までの延長約200メートルあるが、対策の進捗状況についてお聞きします。

その3は、下水処理場の整備についてお尋ねします。川中島下水処理施設は老朽化しており、一昨年(平成25年)の台風26号による被害は、周辺の水害状況や合流式下水道もあることから考えると、パンクに近い状況であったものと思います。平成25年の台風26号の被害状況をお聞きします。

その2は、合併処理浄化槽の設置についてお尋ねします。合併処理浄化槽は、微生物を利用して排水中の有機物を90%除去することで下水道の終末処理場とほぼ同等な高度な水処理が可能で、川や沼をきれいに保つことが可能とされております。合併処理浄化槽設置者は、浄化槽法による保守点検、清掃及び法定検査受検が義務づけられております。保守点検とは、合併浄化槽の点検、調整、整備、修理などを行うもので、千葉県知事の登録を受けた保守点検業者が合併処理浄化槽設置者の依頼を受けて点検するものです。また、法定検査とは、浄化槽法に基づき行われる検査で、1、合併処理浄化槽が正しく設置されているか。2、合併処理浄化槽が正常に管理されているか。3、保守点検や清掃が適正に行われているかの検査です。合併処理浄化槽設置後、3から5か月後に1回、その後、年1回の合併処理浄化槽検査を知事指定機関の千葉県浄化槽協会が検査を行います。ちなみに、千葉県の浄化槽の設置状況は、平成25年度で39%です。茂原市の設置状況及び使用開始後3か月を経過した日から5か月以内に行う7条

検査の実施率をお聞きします。

その3は、河川及び橋梁の整備について。初めに、河川の整備についてお尋ねします。市内二級河川の一宮川、阿久川、豊田川及び鶴枝川においては、河川敷内の草や竹木が多く茂っていて、護岸の状況を把握することが困難な状況にあります。竹木の伐採について、今後の取り組みをお聞きします。

次に、橋梁などの整備についてお尋ねします。橋梁などの定期点検は、あらかじめ一定の期間を定めて定期的に行われるものです。さらに、巡回等にあわせて日常的に行う通常点検や特定の事象に特化した特定点検などがあり、効率的かつ効果的に行うことが重要であるとされており、橋梁などの定期点検は具体的にどのようにされているのかお聞きします。

以上をもちまして、1回目の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（森川雅之君） ただいまの佐藤栄作議員の一般質問に対し当局の答弁を求めます。

市長 田中豊彦君。

（市長 田中豊彦君登壇）

○市長（田中豊彦君） 佐藤栄作議員の一般質問にお答えさせていただきます。

まず、マイナンバー制度の運用についての中で、導入効果についての御質問でございますが、マイナンバー制度の導入により国や他の自治体とネットワークを介しての情報の受け渡しが可能となりますので、市民の皆様にとっては行政機関の窓口での申請手続に必要な添付書類が減少することにより負担が軽減されることとなります。また、希望者に対し交付されます個人番号カードは、写真つきの身分証明書をお持ちでない方にとりましては、さまざまな場面で御利用いただける公的な身分証明書となります。

次に、オリンピック・パラリンピックを活用した施策の展開についての中で、選手団の合宿誘致の推進についての御質問でございますが、合宿誘致の推進につきましては、施設の条件が幅広く定義されており、既存施設の活用は非常に厳しいものと考えておりますが、本市では、合宿所の誘致も含めボランティアなどソフト面での関わりも視野に、近隣自治体や県及び千葉市との連携による体制づくりを検討してまいります。

次に、外国人観光客を呼び込むための公衆無線LANについての御質問でございますが、国内外からの観光客誘致と利便性の向上において、公衆無線LANの設置は有効な手段であることから、市役所や公共施設をはじめ、本市の玄関口である茂原駅周辺の施設へ設置できるよう検討してまいります。

私からは以上でございます。

○議長（森川雅之君） 総務部長 豊田正斗君。

（総務部長 豊田正斗君登壇）

○総務部長（豊田正斗君） 総務部所管に関わります御質問に御答弁を申し上げます。

初めに、マイナンバー制度に係るセキュリティ対策についてでございますが、個人情報を管理している基幹系パソコンとインターネットに接続されている情報系パソコンは、物理的に遮断された状態で管理されております。セキュリティ対策につきましては、外部との情報連携に行政専用のネットワークである総合行政ネットワークシステム（LGWAN）を用いることや、マイナンバーを利用するシステムへアクセスできる職員を限定いたしまして、アクセス記録を管理することなどの措置を講じております。

続きまして、制度の周知についてでございますが、調査結果では、国民の半分以上が制度の内容を知らないという状況でございますので、まだまだ広報が行き渡っておらず、制度について十分な理解がされていないという印象を持っております。マイナンバーの通知の開始まであと1か月に迫っておりますので、市民の皆様これまで以上に広報活動を行っていく必要があるものと考えております。以上でございます。

○議長（森川雅之君） 市民部長 相澤 佐君。

（市民部長 相澤 佐君登壇）

○市民部長（相澤 佐君） 市民部所管に関わります御質問に御答弁申し上げます。

最初に、健康診査等の受診状況と課題及び対策についての御質問でございますけれども、国民健康保険では、40歳から74歳の被保険者の方を対象として特定健診を実施し、75歳以上の後期高齢者医療制度加入者の方には健康診査を実施しております。特定健診につきましては、国の指針に基づき、平成25年度の目標受診率を35%と設定したところでございますが、当該年度の受診率は33.8%であり、県平均の36.5%を下回っている状況でございますので、受診率の向上が求められているところでございます。

また、後期高齢者健康診査につきましても、平成25年度の受診率は13%であり、県平均の31.7%を下回っている状況でございます。受診率向上等を図るため、毎年、集団健診終了後に茂原市長生郡医師会の先生方と次の年の健診方法について協議を行いまして、検査項目を追加するなど対策を講じながら実施しており、受診率は年々向上しているところでございます。

次に、本市の医療費は他市と比べてどのような状況か、また、予防医療の実態と対策についての御質問でございますけれども、平成25年度の本市の被保険者1人あたりの医療費は約29万3000円で、県内54市町村の中で31番目となっております。予防医療につきましては、特定健診

等を実施することにより生活習慣病の予防を図りますとともに、特定健診による結果数値に異常が認められる方の中で医療機関を受診していない方には保健師、栄養士から電話や訪問により受診勧奨を行い、重症化予防に努めているところでございます。

また、各種がん検診を実施することにより、がんを早期に発見し、早期治療に結びつけることができるよう取り組んでいるところでございます。以上でございます。

○議長（森川雅之君） 都市建設部長 佐久間静夫君。

（都市建設部長 佐久間静夫君登壇）

○都市建設部長（佐久間静夫君） 都市建設部所管に関わります生活環境の整備についての御質問に御答弁申し上げます。

初めに、カスミ東郷店付近の排水の現状についての御質問でございますが、当該箇所につきましては、県道茂原環状線の歩道部分でありますので、これまでも県に対し要望をしてきたところでございます。県からは、平成28年度に原因究明に向けた調査を実施し、その後対策を講じると伺っております。市といたしましては、早期に解消できるよう引き続き要望してまいります。

次に、杉屋団地と砂台団地の地域排水の進捗状況についての御質問でございますが、杉屋団地につきましては、流末である県道茂原環状線の排水路整備を県が本年度から工事着手する予定となっていることから、市が整備を行う県道から団地までの間につきましても早期に着手したいと考えております。砂台地区につきましては、市が整備を行う公道部分の排水整備について、平成25年度に完了いたしました。残る箇所につきましては、私道であることから、関係者が排水整備を行うこととなりますので、市といたしましては、関係者の負担軽減と整備の促進を図る観点から、茂原市私道排水施設等整備工事補助金の活用について説明を行い、整備をお願いしたところでございます。また、技術的な援助等の要請があれば対応してまいりたいと考えております。

次に、下水処理場の平成25年の台風26号による被害はどのような状況であったかとの御質問でございますが、河川の溢水によりまして合流区域の雨水桝から下水管内へ大量の雨水が流入したため、処理場の能力を超え、沈砂室の床面が2.6メートルの高さまで冠水いたしました。このことにより、設備の一部である沈砂かき揚げ機及びしき搬出機等が被害を受けたところでございます。

次に、市内二級河川の河川敷内竹木伐採について、今後の取り組みはどの御質問でございますが、一昨年の台風26号による浸水被害が大きかった一宮川につきましては、平成26年に伐採

が実施されたところでございます。また、阿久川につきましても、昨年度、繁茂が著しいところについて除草と伐採が行われており、本年度も引き続き予定しているとのことでございます。市といたしましては、ほかの二級河川も含め適切な管理を引き続き県にお願いしてまいりたいと考えております。

次に、橋梁などの定期点検は具体的にどのようにされているのかとの御質問でございますが、橋梁長寿命化計画の対象といたしました市道1級、2級にかかる橋梁及び市道3級にかかる10メートル以上の橋梁83橋について定期点検を実施しております。また、点検方法でございますが、国土交通省で定めた道路の維持、または修繕に関する技術的基準に基づき5年に1回のサイクルで近接目視により実施しております。以上でございます。

○議長（森川雅之君） 経済環境部長 西ヶ谷正士君。

（経済環境部長 西ヶ谷正士君登壇）

○経済環境部長（西ヶ谷正士君） 経済環境部所管に関する御質問にお答え申し上げます。

合併浄化槽の設置についての中で、合併浄化槽の設置状況及び検査の実施率についての御質問でございますが、合併浄化槽の設置状況につきましては、平成26年度末現在で9351基となっております。また、使用開始後3か月を経過した日から5か月以内に行う7条検査は、過去3年の実施率といたしまして、平成24年度87.3%、平成25年度54.3%、平成26年度53.8%となっております。以上でございます。

○議長（森川雅之君） 再質問ありますか。佐藤栄作議員。

○7番（佐藤栄作君） 御答弁ありがとうございました。これよりは一問一答による質問をさせていただきます。

マイナンバー制度の導入について、当局におかれては10月スタートに向け準備作業に御苦労が多いことと思います。システムの準備はどのように進められたのか、予想外の財政負担はなかったのか、通知カードを各家庭に郵送するための準備は順調か等、準備状況についてお聞きします。

○議長（森川雅之君） 総務部長 豊田正斗君。

○総務部長（豊田正斗君） 国から示されました仕様書をもとにシステムを改修しておりますので、想定外の財政負担等はございません。また、通知カードの郵送準備につきましても、地方公共団体情報システム機構（J-LIS）と緊密に連絡をとりまして、遅れのないよう準備を進めているところでございます。

○議長（森川雅之君） 佐藤栄作議員。

○7番（佐藤栄作君） 個人情報保護及びセキュリティ対策について質問します。職員のセキュリティ意識の向上を図るために、藤沢市は標的型攻撃メールへの訓練を実施していますが、当局はどのような対策をお考えなのか伺います。

○議長（森川雅之君） 総務部長 豊田正斗君。

○総務部長（豊田正斗君） 標的型攻撃メールの対策につきましては、先ほど申しあげました日本年金機構の事件を受けまして、職員に注意喚起をするとともに、独立行政法人情報処理システム機構で作成をいたしました攻撃メールの見分け方、これを職員に周知いたしまして予防に努めております。

○議長（森川雅之君） 佐藤栄作議員。

○7番（佐藤栄作君） 不安を払拭するために内部からの情報漏洩や外部からの攻撃による情報漏洩に備えるための対策についてお聞きします。

○議長（森川雅之君） 総務部長 豊田正斗君。

○総務部長（豊田正斗君） マイナンバー制度の根幹となります住民基本台帳情報の取り扱いにおきましては、総務部長をセキュリティ総括責任者といたしまして、セキュリティ対策会議を設置いたしまして、外部からの不正アクセスや不適切な個人情報の持ち出しなど、緊急時を想定いたしました訓練を毎年実施し、危機管理対策に努めておるところでございます。

○議長（森川雅之君） 佐藤栄作議員。

○7番（佐藤栄作君） セキュリティ対策の課題は財政面と人材面がありますが、市はどのような点を必要としているのかお聞きします。

○議長（森川雅之君） 総務部長 豊田正斗君。

○総務部長（豊田正斗君） 国による財政支援や情報セキュリティの人材派遣等が考えられますが、当面の課題といたしまして、職員全体の情報セキュリティ対策への意識を高めることが必要と考えております。そういうことで引き続き研修等を実施してまいりたいと考えております。

○議長（森川雅之君） 佐藤栄作議員。

○7番（佐藤栄作君） 基礎年金番号との連結が延期されることにより、マイナンバー制度全体に与える影響及び年金手続きについての市民への影響についてお聞きします。

○議長（森川雅之君） 総務部長 豊田正斗君。

○総務部長（豊田正斗君） 基礎年金番号との連結につきましては延期されましたが、その他の業務におけるマイナンバーの利用につきましては、変更は特にございませぬ。したがいまし

て、制度全体には大きな影響はないものと考えております。年金に関する窓口での手続きにつきましては、当初の予定どおりであれば手続きが簡素化され、市民の皆様の利便性向上が見込まれておりましたが、当面は現状のまま対応させていただくこととなります。

○議長（森川雅之君） 佐藤栄作議員。

○7番（佐藤栄作君） 制度の周知徹底について、本市においては、市民の皆さんのマイナンバー制度の認知度についてどのように把握しているのかお聞きします。

○議長（森川雅之君） 総務部長 豊田正斗君。

○総務部長（豊田正斗君） 市独自では、市民の皆様の認知度は把握しておりませんが、本市におきましても、先ほどありました世論調査の結果と同様であるものと推測いたしております。

○議長（森川雅之君） 佐藤栄作議員。

○7番（佐藤栄作君） 本市においては、マイナンバー制度についてどのような周知徹底をしているのかお聞きします。

○議長（森川雅之君） 総務部長 豊田正斗君。

○総務部長（豊田正斗君） 制度の周知につきましては、既に広報もばら8月1日号及び9月1日号、さらにはホームページにより広報を行っているところでございます。さらに、今月の自治会回覧で通知カードの送付や個人番号カードの交付申請方法についてのチラシを全戸配布いたしまして、さらなる周知を図っているところでございます。また、市内業者に対しましても、パンフレットの配布を予定しております。制度の開始に向けまして、市民の皆様に一層の御理解をいただけるよう引き続き広報活動に努めてまいりたいと考えております。

○議長（森川雅之君） 佐藤栄作議員。

○7番（佐藤栄作君） 健康診査等について、医療費削減の面からも健診を受診してもらい、重症にならないように誘導するためにも受診勧奨に努めなければならないと考えておりますが、方策をお聞きします。

○議長（森川雅之君） 市民部長 相澤 佐君。

○市民部長（相澤 佐君） 平成26年度からは特定健診未受診者対策といたしまして、健診の必要性を記載したはがきによる勧奨や電話による勧奨を実施しております。

○議長（森川雅之君） 佐藤栄作議員。

○7番（佐藤栄作君） 予防医療の充実についてお尋ねします。医療費の課題に対しては、生活習慣病予防を柱とした保健事業の実施や、より効果的な事業を目指しておりますが、レセプトを活用しての医療費削減はどうかお聞きします。

○議長（森川雅之君） 市民部長 相澤 佐君。

○市民部長（相澤 佐君） レセプト情報をもとにした国保データベースシステムが平成25年10月から稼働しておりますので、このシステムを活用しまして、本市国保の特徴的な疾病を把握しまして、効果的にその疾病の予防を行うことにより医療費の削減が図られるものと考えております。

○議長（森川雅之君） 佐藤栄作議員。

○7番（佐藤栄作君） レセプトには傷病名ごとの医療費が算出できない問題点があります。そこで、医療とICT（情報通信技術）の両方にノウハウを持つ民間企業と協力のもと、傷病名と診療行為、投薬名を関係づけた傷病名ごとの医療費の算出を可能にしてはどうかお聞きします。

○議長（森川雅之君） 市民部長 相澤 佐君。

○市民部長（相澤 佐君） 御質問のシステムにつきましては、広島県呉市で採用していることは認識しております。呉市は平成24年度に国保加入者の年間医療費が高いことから、市民の健康増進と医療費適正化を図るためレセプトデータを分析し、生活習慣病予防を柱とした保健事業を推進したと聞いております。しかしながら、このシステムは千葉県内の保険者では採用している情報もございません。費用対効果等もありますので、本市国保におきましては、既存の国保データベースシステム等を活用することにより、医療費適正化を図りますとともに、生活習慣病の重症化予防に取り組んでまいりたいと考えております。

○議長（森川雅之君） 佐藤栄作議員。

○7番（佐藤栄作君） 国は全ての保険者に対し、2014年度中にデータヘルス計画の策定を要望しておりましたが、本市はどのような計画策定となっているのかお聞きします。

○議長（森川雅之君） 市民部長 相澤 佐君。

○市民部長（相澤 佐君） 国保保険者につきましては、平成26年度以降、順次、データヘルス計画の作成し公表することとなっております。本市におきましては、平成25年度から29年度を計画期間としております第2期特定健康診査等実施計画を平成24年度末に策定しておりますので、この既存計画にデータヘルス部分を今年度末までに追加修正する予定でございます。

○議長（森川雅之君） 佐藤栄作議員。

○7番（佐藤栄作君） 公明党が支援をした健康寿命の延伸や医療費の適正化に限らず、地方創生にもつながりますので、さらなる普及を目指すことを要望いたします。

続いて、選手団の合宿誘致の体制づくりについて、合宿を誘致するにあたり、対象として想

定する国はあるのかお聞きします。

○議長（森川雅之君） 企画財政部長 岡澤与志隆君。

○企画財政部長（岡澤与志隆君） 本市の施設では、合宿の誘致は非常に厳しいものと考えておりますので、現時点で想定している国はございません。

○議長（森川雅之君） 佐藤栄作議員。

○7番（佐藤栄作君） 近隣自治体との連携により、どのような体制づくりを考えているのかお聞きします。

○議長（森川雅之君） 企画財政部長 岡澤与志隆君。

○企画財政部長（岡澤与志隆君） 合宿誘致の可能な施設を有する近隣市町村等の意向を確認しながら連携を図ってまいりたいと考えております。

○議長（森川雅之君） 佐藤栄作議員。

○7番（佐藤栄作君） 近隣には、過去に、世界大会などの事前キャンプで実績のある民間施設がありますが、この施設との連携についてどのように考えているのかお聞きします。

○議長（森川雅之君） 企画財政部長 岡澤与志隆君。

○企画財政部長（岡澤与志隆君） 本市といたしましては、民間施設の活用も視野に、関係者の意向も踏まえながら検討してまいりたいと考えております。

○議長（森川雅之君） 佐藤栄作議員。

○7番（佐藤栄作君） 選手団の誘致を進める際は、どのような手続きとなるのかお聞きします。

○議長（森川雅之君） 企画財政部長 岡澤与志隆君。

○企画財政部長（岡澤与志隆君） 誘致につきましては、キャンプ候補地を紹介リストへ掲載することにより情報を提供し、各国の選手団からの照会を待ち、交渉を開始する手法と、自治体が独自のルートを通じてアプローチする手法が考えられます。

○議長（森川雅之君） 佐藤栄作議員。

○7番（佐藤栄作君） 外国人観光客を呼び込むための施策について。現在、公衆無線LANの設置に向けてどのような状況なのかお聞きします。

○議長（森川雅之君） 経済環境部長 西ヶ谷正士君。

○経済環境部長（西ヶ谷正士君） 公衆無線LANですが、県内のJR全駅は設置をしない方針でありますので、駅周辺の商業施設や商店街に設置できるか、現在調査をしております。設置にあたりましては、県の補助金でございます外国人観光誘致整備事業補助金を活用してまいりたいと考えております。

○議長（森川雅之君） 佐藤栄作議員。

○7番（佐藤栄作君） 観光客や集客目的の観光案内所の設置についてお聞きします。

○議長（森川雅之君） 経済環境部長 西ヶ谷正士君。

○経済環境部長（西ヶ谷正士君） 現在、JR茂原駅の協力によりまして、本年3月に上りエスカレーター付近にアンテナステーションを設置いたしました。アンテナステーションには、茂原市を含めた長生地域の観光パンフレットやイベント情報を提供しております。観光情報の拠点となるよう、今後も継続して実施してまいります。

○議長（森川雅之君） 佐藤栄作議員。

○7番（佐藤栄作君） 生活排水施設の整備について。初めに、カスミ東郷店付近の排水問題について、12月に県と市の担当者及び谷本の水利組合管理者でどのような話し合いが持たれたのかお聞きします。

○議長（森川雅之君） 都市建設部長 佐久間静夫君。

○都市建設部長（佐久間静夫君） 県道茂原環状線の道路冠水につきまして、県及び市、並びに谷本地域の排水先となる両総土地改良区高根支部、内谷川土地改良区及び両総用水東郷関維持管理組合で協議をいたしたところでございます。協議の結果でございますが、冠水が発生する場所は阿久川、新川、内谷川の流域境に位置しており、また、それぞれの土地改良区でつくった排水路は、流域面積に応じて整備されているため、ほかの地域排水は受けられないとのことであり、排水先が決められない状況でございます。

○議長（森川雅之君） 佐藤栄作議員。

○7番（佐藤栄作君） これは要望であります。時間はかかるかと思いますが、谷本の水利組合管理者に納得していただき、環境対策を優先して押し進めていただける配慮を要望いたします。

次に、杉屋団地と砂台団地の地域排水問題の進捗状況について、流末の県道茂原環状線の排水路整備事業計画は何年計画のものなのかお聞きします。

○議長（森川雅之君） 都市建設部長 佐久間静夫君。

○都市建設部長（佐久間静夫君） 3年程度を予定しているとのことでございます。

○議長（森川雅之君） 佐藤栄作議員。

○7番（佐藤栄作君） 杉屋団地の排水施設は未整備箇所があり、私道であります。また、砂台団地は私道に既存の排水施設があります。両団地とも窪地で水のたまりやすい地域でもあります。深さ80センチで勾配がとれるのかの心配があります。市当局は、私道における支援対策

として、茂原市私道排水施設等整備工事補助金の活用を紹介しておりますが、具体的な内容をお聞きします。

○議長（森川雅之君） 都市建設部長 佐久間静夫君。

○都市建設部長（佐久間静夫君） 私道の幅員が4メートル以上あり、かつ公道に接していること、5世帯以上の住居が隣接し、かつ3年以上居住していること、受益者全員で組合を設立し工事完了後の維持管理が適正に行われること、現地及び公図において私道と宅地が明確になっていることなどの条件がございます。また、補助金につきましては、申請1件につき工事費の2分の1以内で、補助限度額といたしましては300万円となっております。

○議長（森川雅之君） 佐藤栄作議員。

○7番（佐藤栄作君） 下水処理場の整備について、台風の時間最大雨水量が51ミリであったと聞いておりますが、下水処理場の雨水処理能力はどのくらいなのかお聞きします。

○議長（森川雅之君） 都市建設部長 佐久間静夫君。

○都市建設部長（佐久間静夫君） 下水処理場の雨水処理能力につきましては、4台の雨水ポンプで毎分355立法メートル排出することができます。これを時間最大雨量にいたしますと、50ミリまで処理することが可能となっているところでございます。

○議長（森川雅之君） 佐藤栄作議員。

○7番（佐藤栄作君） 他の本管と接続合流されている箇所があるのか、それは合流式、分流式のいずれなのか、浸水に対する対策をお聞きします。

○議長（森川雅之君） 都市建設部長 佐久間静夫君。

○都市建設部長（佐久間静夫君） 御質問は、八千代通りの下水道の本管のことだと思いますが、こちらにつきましては、合流式の区域である昌平町及び本町からの管が接続されております。浸水対策につきましては、「100mm/h安心プラン」に基づきまして、処理場に設置されている雨水ポンプ、八千代通りに埋設されている雨水管の能力増強を計画しており、現在、専門のコンサルタントに委託して検討しているところでございます。

○議長（森川雅之君） さらに質問ありますか。佐藤栄作議員。

○7番（佐藤栄作君） 雨水管を倍増し中間及び各1カ所に集め、貯水槽からポンプアップして放流してみてもどうかお聞きします。

○議長（森川雅之君） 都市建設部長 佐久間静夫君。

○都市建設部長（佐久間静夫君） 先ほど御答弁申し上げましたとおり、現在、施設の能力検討をしているところでございますので、その中で御提案の方法も含め、より効果的で経済的な

雨水処理の方法を考えてまいりたいと思います。

○議長（森川雅之君） 佐藤栄作議員。

○7番（佐藤栄作君） 水害の軽減対策として、当局の見解をお聞きします。

○議長（森川雅之君） 都市建設部長 佐久間静夫君。

○都市建設部長（佐久間静夫君） 「100mm/h安心プラン」に基づく浸水対策を県と市が連携し、早期に完成させるとともに、一宮川の河川整備計画に基づく下流側の改修が早期に完成するよう、国及び県に引き続き要望してまいりたいと考えております。

○議長（森川雅之君） 佐藤栄作議員。

○7番（佐藤栄作君） 合併処理浄化槽の設置について。本市の浄化槽法第11条検査実施率のデータはあるのか、また、今後の実施率を押し上げるための対策を考えているのかお聞きします。

○議長（森川雅之君） 経済環境部長 西ヶ谷正士君。

○経済環境部長（西ヶ谷正士君） 11条検査につきましては、単独浄化槽を含めた実施率となりますが、平成24年度で6.8%、平成25年度で8.5%、平成26年度については、現在のところ集計が出ておりません。今年度から浄化槽補助金申請におきましては、保守点検・清掃、11条検査を一括で契約することを義務づけましたので、これにより今後、実施率の向上に努めてまいりたいと考えております。

○議長（森川雅之君） 佐藤栄作議員。

○7番（佐藤栄作君） 建築主に雨水浸透施設や雨水貯留タンクの設置の協力を図る印旛沼ルールが先進例としてありますが、本市はどのように考えているのかお聞きします。

○議長（森川雅之君） 都市建設部長 佐久間静夫君。

○都市建設部長（佐久間静夫君） 水害対策の1つといたしまして、河川や水路への雨水流出抑制を図るために、昨年の10月から雨水貯留槽及び雨水浸透枳を設置した際に、その費用の一部を助成しておるところでございます。開発や建築の相談があった際には設置のお願いをしており、今後もこの制度を活用し、雨水の流出抑制に御協力をいただけますよう、引き続き広報等による周知に努めてまいりたいと考えております。

○議長（森川雅之君） さらにありますか。佐藤栄作議員。

○7番（佐藤栄作君） 河川及び橋梁の整備について。初めに河川の整備について、一宮川と阿久川合流点下流の護岸の基礎部分のコンクリート板が約200メートルにわたって崩れております。これは一宮川と阿久川の合流により渦を巻いて洗掘されたため崩れたものと思われま

洗掘されたということを放置しておく、さらに崩れていくため、早期の対策が必要と思われます。この現状を把握しているのかお聞きします。

○議長（森川雅之君） 都市建設部長 佐久間静夫君。

○都市建設部長（佐久間静夫君） 県に、当該箇所について確認をいたしましたところ、状況は把握しており、護岸法面での崩落等は見受けられないため、直ちに崩落するとの認識は持っていないとのことでした。

○議長（森川雅之君） 佐藤栄作議員。

○7番（佐藤栄作君） 「100mm/h安心プラン」とは、具体的に何かお聞きします。

○議長（森川雅之君） 都市建設部長 佐久間静夫君。

○都市建設部長（佐久間静夫君） 台風や近年の局地的な大雨に対し、河川と下水道の整備や住民などによるソフト対策により住宅地や市街地の被害軽減を図る計画であり、登録することで国からの交付金が優先的に交付される制度となっております。

○議長（森川雅之君） 佐藤栄作議員。

○7番（佐藤栄作君） 次に、橋梁などの整備について、茂原駅から広域農道に通じる幹線道路は多くの車が行き交う道路であります。その中間に一宮川の明光橋に橋脚が5本ありますが、交通量の多さや老朽化によって、橋梁の強度が落ちているのではないかと思います。この状況を認識しているのかお聞きします。

○議長（森川雅之君） 都市建設部長 佐久間静夫君。

○都市建設部長（佐久間静夫君） 明光橋につきましては、橋梁長寿命化計画により修繕の予定をしております。現在、耐震化も含めて詳細設計を実施しておりますところでございます。

○議長（森川雅之君） 佐藤栄作議員。

○7番（佐藤栄作君） 一宮川等には橋脚が多く存在し、異物が引っかかりやすく、流れを疎外する恐れがあるので、今後、順次改修工事の際、橋脚なくすように改修してはどうかお聞きします。

○議長（森川雅之君） 都市建設部長 佐久間静夫君。

○都市建設部長（佐久間静夫君） 橋脚をなくすということになりますと、橋の架け替えになりますので、これにつきましては、河川改修などの際に検討してまいりたいと考えております。市といたしましては、橋梁長寿命化計画に基づきまして橋脚を修繕することにより対応してまいりたいと考えております。

○議長（森川雅之君） 佐藤栄作議員。

○7番（佐藤栄作君） 橋梁の鉄さびがひどいところのメンテナンスはどのような計画をされているのかお聞きします。

○議長（森川雅之君） 都市建設部長 佐久間静夫君。

○都市建設部長（佐久間静夫君） 5年ごとの橋梁の定期点検によりまして、必要に応じまして橋梁長寿命化計画に反映させてまいりたいと考えております。

○議長（森川雅之君） 佐藤栄作議員。

○7番（佐藤栄作君） 最後に要望であります。早期に橋梁の改修が実施されることを要望いたしまして、私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（森川雅之君） 以上で佐藤栄作議員の一般質問を終わります。

これをもって本日の議事日程は終了しました。

明日は午前10時から本会議を開き、一般質問を続行します。

本日は以上で散会します。御苦労さまでした。

午後4時22分 散会

————— ☆ ————— ☆ —————

## ○本日の会議要綱

### 1. 一般質問

#### 1. 前田正志議員の一般質問並びに当局の答弁

- ① まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議
- ② 子育て支援
- ③ 安心・安全のまちづくり

#### 2. 田畑 毅議員の一般質問並びに当局の答弁

- ① 水害対策について
- ② 企業誘致促進事業と観光事業について
- ③ 人口減少問題について

#### 3. 細谷菜穂子議員の一般質問並びに当局の答弁

- ① 児童虐待防止について
- ② 茂原市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗について
- ③ 市内道路の白線のうすい箇所の補修の取り組みについて
- ④ 茂原公園道表山のシンボルとなる展望台設置の方向性について
- ⑤ 茂原市独自の暑さ対策グッズの開発について

4. 小久保ともこ議員の一般質問並びに当局の答弁

- ① 子育て支援について
- ② 高齢者支援について
- ③ 快適で使いやすい公共施設について

5. 佐藤栄作議員の一般質問並びに当局の答弁

- ① マイナンバー制度の運用について
- ② 健康、医療施策の拡充について
- ③ オリンピック、パラリンピックを活用した施策の展開について
- ④ 生活環境の整備について

○出席議員

議長 森川雅之君

副議長 矢部義明君

1番	飯尾 暁君	2番	小久保 ともこ君
3番	田畑 毅君	4番	山田 広宣君
5番	平 ゆき子君	7番	佐藤 栄作君
8番	前田 正志君	10番	金坂 道人君
11番	中山 和夫君	12番	山田 きよし君
13番	細谷 菜穂子君	15番	鈴木 敏文君
16番	ますだ よしお君	17番	腰川 日出夫君
19番	深山 和夫君	20番	三橋 弘明君
21番	初谷 智津枝君	22番	竹本 正明君
23番	常泉 健一君	24番	市原 健二君

☆

☆

○欠席議員

なし

☆

☆

○出席説明員

市 長	田 中 豊 彦 君	副 市 長	永 長 徹 君
教 育 長	内 田 達 也 君	総 務 部 長	豊 田 正 斗 君
企 画 財 政 部 長	岡 澤 与 志 隆 君	市 民 部 長	相 澤 佐 君
福 祉 部 長	鈴 木 健 一 君	経 済 環 境 部 長	西ヶ谷 正 士 君
都 市 建 設 部 長	佐久間 静 夫 君	教 育 部 長	野 島 宏 君
総 務 部 次 長 (総務課長事務取扱)	三 橋 勝 美 君	企 画 財 政 部 次 長 (企画政策課長事務取扱)	中 村 光 一 君
企 画 財 政 部 次 長 (市民税課長事務取扱)	酒 井 宗 一 君	市 民 部 次 長 (生活課長事務取扱)	片 岡 修 君
福 祉 部 次 長 (子育て支援課長事務取扱)	鶴 岡 一 宏 君	経 済 環 境 部 次 長 (農政課長事務取扱)	木 島 明 良 君
都 市 建 設 部 次 長 (土木建設課長事務取扱)	石和田 久 幸 君	都 市 建 設 部 次 長 (都市整備課長事務取扱)	正 林 正 任 君
教 育 部 次 長 (教育総務課長事務取扱)	藤 乘 裕 喜 君	職 員 課 長	鈴 木 祐 一 君
財 政 課 長	山 田 隆 二 君		

☆

☆

○出席事務局職員

事 務 局 長	十 枝 秀 文
主 幹	河 野 宏 昭
庶 務 係 長	田 中 秀 一